

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

農薬抄録

P A P

(殺虫剤)

(作成年月日)

(改訂年月日) 平成24年 3月27日

(作成会社名)

日産化学工業株式会社

(作成責任者・所属)

	(会社名)	(担当部課)	(担当者)	(TEL)
連絡先				

目 次

I.	開発の経緯.....	1
II.	物理的・化学的性状.....	3
III.	生物活性.....	20
IV.	適用及び使用上の注意.....	21
V.	残留性及び環境中予測濃度算定関係.....	34
VI.	有用動植物等に及ぼす影響.....	85
VII.	使用時安全上の注意、解毒法等.....	106
VIII.	毒性.....	VIII- 1
1.	原体	
(1)	急性毒性.....	VIII- 9
(2)	皮膚及び眼に対する刺激性.....	VIII- 13
(3)	皮膚感作性.....	VIII- 15
(4)	急性神経毒性.....	VIII- 18
(5)	急性遅発性神経毒性.....	VIII- 24
(6)	90日間反復経口投与毒性.....	VIII- 25
(7)	反復経口投与神経毒性.....	VIII- 36
(8)	慢性毒性及び発がん性.....	VIII- 39
(9)	繁殖毒性及び催奇形性.....	VIII- 67
(10)	変異原性.....	VIII- 75
(11)	生体機能影響.....	VIII- 84
(12)	解毒及び治療.....	VIII- 88
2.	原体中混在物及び代謝物	
(1)	急性毒性.....	VIII- 96
(2)	変異原性.....	VIII- 97
3.	製剤	
(1)	50%乳剤.....	VIII-102
(2)	40%水和剤.....	VIII-111
(3)	3%DL粉剤.....	VIII-118
4.	参考	
(1)	原体.....	VIII-125
(2)	製剤.....	VIII-156
IX.	動植物及び土壌等における代謝分解.....	IX- 1
〔附〕	PAPの開発年表.....	附- 1

I. 開発の経緯

PAP は低毒性有機リン系殺虫剤として、1956 年イタリアモンテカチーニ社及びドイツバイエル社によって開発された化合物である。

1952 年、パラチオンが、当時稲の最大害虫であるニカメイチュウの防除に開発され卓効を示したが、その急性毒性が強いため、使用量の増加にともない、中毒事故が顕在化した。低毒性有機リン剤の開発が望まれる中で、日産化学工業株式会社は 1961 年にモンテカチーニ社から技術導入し、PAP の国内における開発試験に着手した。

1962 年から（社）日本植物防疫協会を通じて、本格的な委託試験を実施し、水稻、果樹、野菜、豆類、茶、桑などの主要害虫である鱗翅目、半翅目、双翅目、甲虫目等の害虫に卓効を示すことが確認された。1963 年 2 月 26 日に 2%粉剤、3%粉剤及び 50%乳剤が登録された。

その後も多くの開発試験が実施され、40 種以上の作物に登録されている。また、水稻を対象に多くの混合剤が開発され使用されている。

作物名「みかん」を「かんきつ」に変更する登録申請を行った。

諸外国においても 1966 年から開発を開始し、広範囲の作物に登録されている。諸外国の登録状況を次頁の表に示す。

1973 年 12 月 21 日に残留基準値が告示され、米(玄米)、かぼちゃ、みかん、日本なし、西洋なし、ももに設定された。また、作物残留に係る登録保留基準は 1974 年 9 月 9 日に麦・雑穀、果実(なし、もも及びみかんを除く)、野菜(かぼちゃを除く)、いも類、豆類、茶に設定された。なお、1994 年 11 月 21 日に水質汚濁に係る登録保留基準が 0.07mg/l として設定されている。ADI は 1994 年の残留農薬安全性評価委員会において 0.0029 mg/kg/日を設定されている。2005 年 11 月 29 日に食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件としていわゆるポジティブリスト制が施行され、残留基準が設定されている作物以外には暫定残留基準値が設定された。暫定残留基準の見直し及びかんきつの変更登録申請のため、2011 年 10 月 6 日開催の第 402 回食品安全委員会で ADI が 0.0029mg/kg/日と設定された。

国名	適用作物名	基準値 ppm	登録年月日
アルゼンチン	穀類、だいず、かんきつ、ひまわり、亜麻、棉	日本と同じ	1988. 10. 12
インドネシア	だいず、キャベツ、こしょう、パーム	日本と同じ	1986. 9. 6 更新
韓国	水稲*、とうもろこし、きゅうり、かんきつ、りんご、なし、もも、かき、くり、パイナップル、桑	0. 2	1967. 6. 9
キューバ	とうもろこし、十字花作物、かんきつ	0. 5	1988. 10. 18
コロンビア	水稲、トマト、ばれいしょ、棉、コーヒー		1988. 10. 11
台湾	水稲、蔬菜	日本と同じ	1988. 4. 7 更新
中国	水稲	非公開	1983. 8. 19
	かんきつ	"	1987. 7. 30
ドミニカ	水稲、とうもろこし、十字花作物、かんきつ、棉、たばこ		1989. 10. 26
フィリピン	水稲、とうもろこし、ばれいしょ、豆類、ソルガム、トマト、蔬菜、かんきつ、マンゴー、棉、たばこ	規定なし	1980. 11. 4
ブラジル	トマト		1990. 4. 12
ブルガリア	小麦、トマト	規定なし	1988. 2. 26
ベネズエラ	水稲、ばれいしょ、トマト、たまねぎ、ごま、とうもろこし	規定なし	1987. 5. 7
ペルー	トマト	規定なし	

*水稲のみ 0. 05ppm

その他アラブ首長国連邦、イラン、インド、クウェート、スリランカ、ソマリア、タイ、チリ、トリニダードトバコ、パキスタン、バングラディシュ、ベトナム、ペルー、ボリビア、マレーシア、ミャンマー、モロッコ、他においても登録されている。

イタリアモンテカチニ社と日産化学工業(株)は共同で、1980年FAO/WHOのJMPRにPAPの安全性評価のための資料一式を提出した。その評価結果は1980年FAO/WHOモノグラフに発表され暫定ADIが0.001mg/kgに設定されたが、1984年のFAO/WHO JMPRにおいて再評価され、最終的ADIが0.003mg/kgに決定された。その後、1997年に日産化学工業(株)は、PAPのJMPR Periodic Reviewをサポートしない旨、FAOに通知し同年10月に受理された。

II. 物理的・化学的性状

1. 有効成分の名称及び化学構造

(1) 一般名

和名：PAP (MAFF名)、フェントエート (ISO名)

英名：PAP (MAFF名)、phenthoate (ISO名)

(2) 別名

商品名：エルサン、Elsan、Cidial

試験名：PAP

(3) 化学名

S- α -エトキシカルボニルベンジル-*O,O*-ジメチルホスホロジチオアト

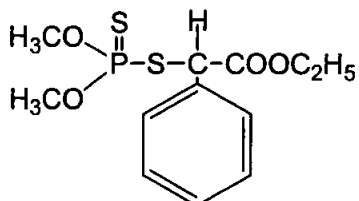
S- α -ethoxycarbonylbenzyl *O,O*-dimethyl phosphorodithioate (IUPAC名)

エチル- α -[(ジメチホスフィノチオイル)チオ]ベンゼンアセテート

ethyl α -[(dimethoxyphosphinothioyl)thio]benzeneacetate (CA名)

ジメチルジチオホスホリルフェニル酢酸エチル (MAFF名)

(4) 構造式



(5) 分子式 $C_{12}H_{17}O_4PS_2$

(6) 分子量 320.4

(7) CAS NO. 2597-03-7

(8) その他 液態

2. 有効成分の物理的・化学的性状

項目		測定値 (測定条件)	測定方法	試験施設/ 報告年/GLP	
色調		無色透明	官能法	1999年/GLP	
形状		油状液体			
臭気		有機リン臭			
密度		1.231 g/cm ³ (20℃)	比重瓶法 OECD 109	2000年/GLP	
融点		-20℃以下	—	—	
沸点		240℃付近で分解開始のため 測定不能	—	—	
蒸気圧		4.2×10 ⁻⁴ Pa (23±1℃)	気体流動法 OECD 104	1987年	
解離定数 (pKa)		構造上解離しないと推定	—	—	
溶解度	水	10.29 mg/l (20℃)	フラスコ法 OECD 105	2000年/GLP	
	有機溶媒	ヘキサン			92.29 g/l (20℃)
		トルエン			>1000 g/l (21℃)
		ジクロロタン			>1000 g/l (21℃)
		アセトン			>1000 g/l (21℃)
		酢酸エチル			>1000 g/l (21℃)
		メタノール			>1000 g/l (21℃)
オクタノール/水分配係数 (log Pow)		3.517 (カラム温度40℃)	HPLC法 OECD 117	2000年/GLP	
生物濃縮性		BCF _{SS} =16 (0.0025 mg/l) BCF _{SS} =17 (0.0025 mg/l)	49基局第392号 化審法	1985年	
土壌吸着係数 (K, K' _{oc})		K = 13.11~33.16 K' _{oc} = 770~1961 (25±1℃)	OECD 106	1990年	
加水分解性		t _{1/2} 約105日 (pH5, 25℃) t _{1/2} 約24日 (pH7, 25℃) t _{1/2} <1日 (pH9, 25℃)	EPA TG N, 161-1	1991年	
水中光分解性	滅菌蒸留水	t _{1/2} 約60日 (27~29℃, 365 nm : 2.70~4.05 W/m ² , 254 nm : 0.061~0.090 W/m ²)	2薬検第955号 暫定実施指針	1991年	
	自然水	t _{1/2} <7日 (27~29℃, 365 nm : 2.70~4.05 W/m ² , 254 nm : 0.061~0.090 W/m ²)			
安定性	対熱	室温で安定 (240℃付近で分解) 図1 (別紙)	DSC OECD 113	1999年/GLP	
	その他	なし	—	—	
スペクトル	UV-VIS	図2~4 (別紙)	OECD 101	2000年/GLP	
	IR	図5 帰属 表1 (別紙)	液膜法 (NaCl板)		
	MS	図6 帰属 表2 (別紙)	DI-EI法		
	¹ H-NMR	図7 帰属 表3 (別紙)	—		
	¹³ C-NMR	図8 帰属 表4 (別紙)	—		

物理的・化学的性状試験の測定条件

熱に対する安定性

測定条件：機器：示差走査熱量計 DSC8230（理学電気）

昇温速度：10℃/min.

試料採取量：約 11 mg（99.5% 純品）

測定温度範囲：25～450℃

試験雰囲気：窒素（流速 約50 ml/min.）

スペクトル

(1) 紫外可視吸収スペクトル

測定条件：機器：紫外可視自記分光光度計 二光束 UV-2400PC（島津製作所）

セル形状：角形石英セル

光路長（セル長さ）：10.0 mm

スリット幅：2 nm

走査スピード：約 42 nm/min.

温度：23℃

試料： 6.305×10^{-5} mol/l

(2) 赤外吸収スペクトル：液膜法（NaCl板）

測定条件：機器：フーリエ変換型赤外分光光度計 シングルビーム FTS-40（BIO-RAD）

積算回数：16

分解能：4 cm^{-1}

(3) 質量スペクトル：直接導入電子衝撃イオン化法（DI-EI法）

測定条件：機器：四重極型質量分析計 JMS-AM50（日本電子）

イオン化電圧：70 eV

イオン源温度：200℃

(4) 核磁気共鳴スペクトル

測定条件：機器：核磁気共鳴分析計 UNITY INOVA400（パリアン）

溶媒：テトラメチルシラン（TMS）含有重クロロホルム

内部基準物質：TMS

観測周波数 $^1\text{H-NMR}$ ：399.912 MHz $^{13}\text{C-NMR}$ ：100.568 MHz

パルス繰り返し時間 $^1\text{H-NMR}$ ：3.499 sec. $^{13}\text{C-NMR}$ ：1.500 sec.

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

DSC	Model : DSC8230	Atmosphere : 窒素:50ml/min	Directory : /MO-MountDir/NCPPAP9926
	Sample : PAP	Rate : 10°C/min	Meas File : NCPPAP9926
	Weight : 11.100 mg	Sampling : 1.10 sec	Record : 99/12/15-14: 7: 6
	Reference : 酸化アルミニウム	Operator : takehara	Print Out : 99/12/15-14:11:41
	Sample Pan : sus-sus	Comments :	

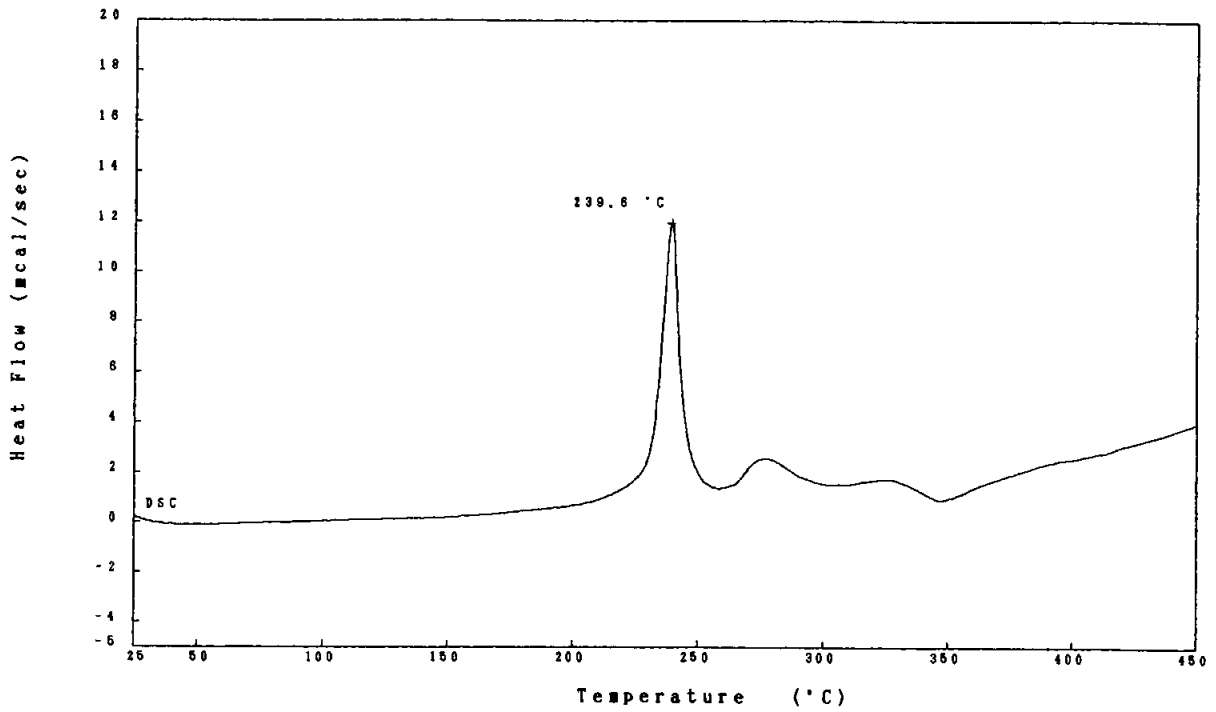


図1 DSC曲線 (窒素雰囲気条件下)

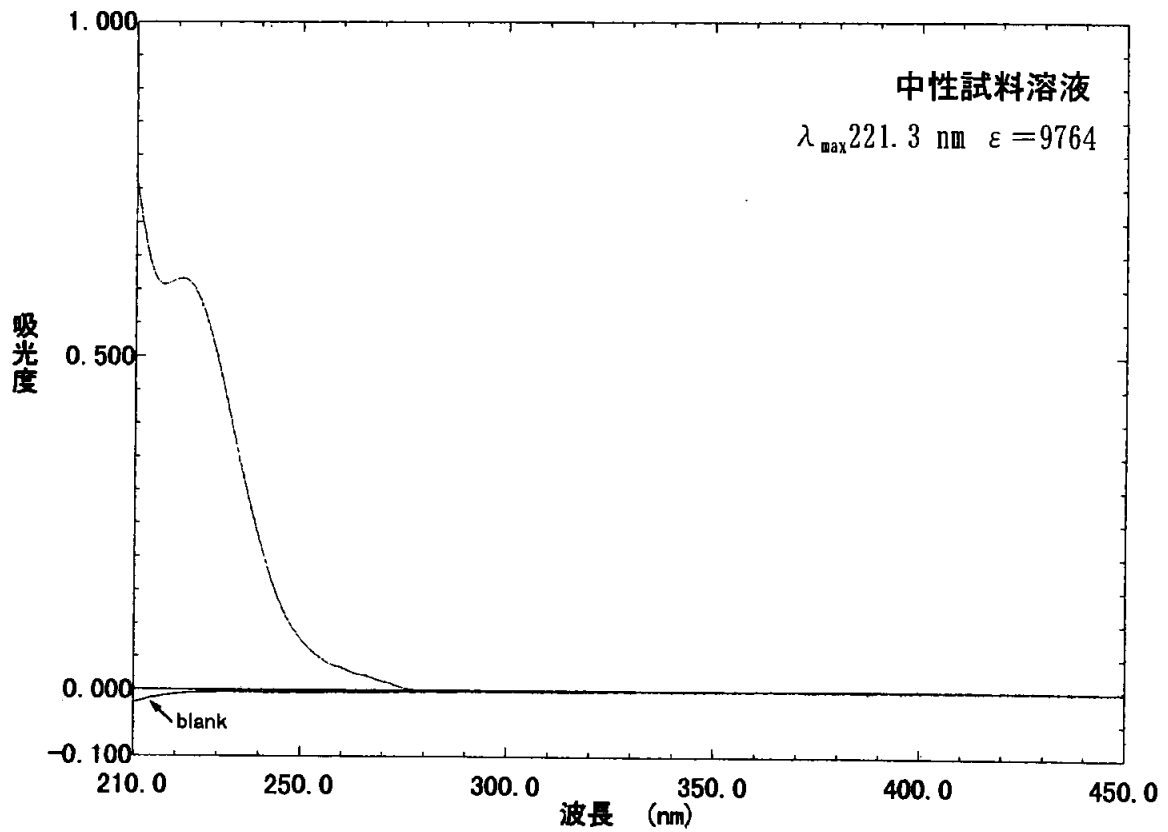


図2 紫外可視吸収スペクトル (中性条件下)

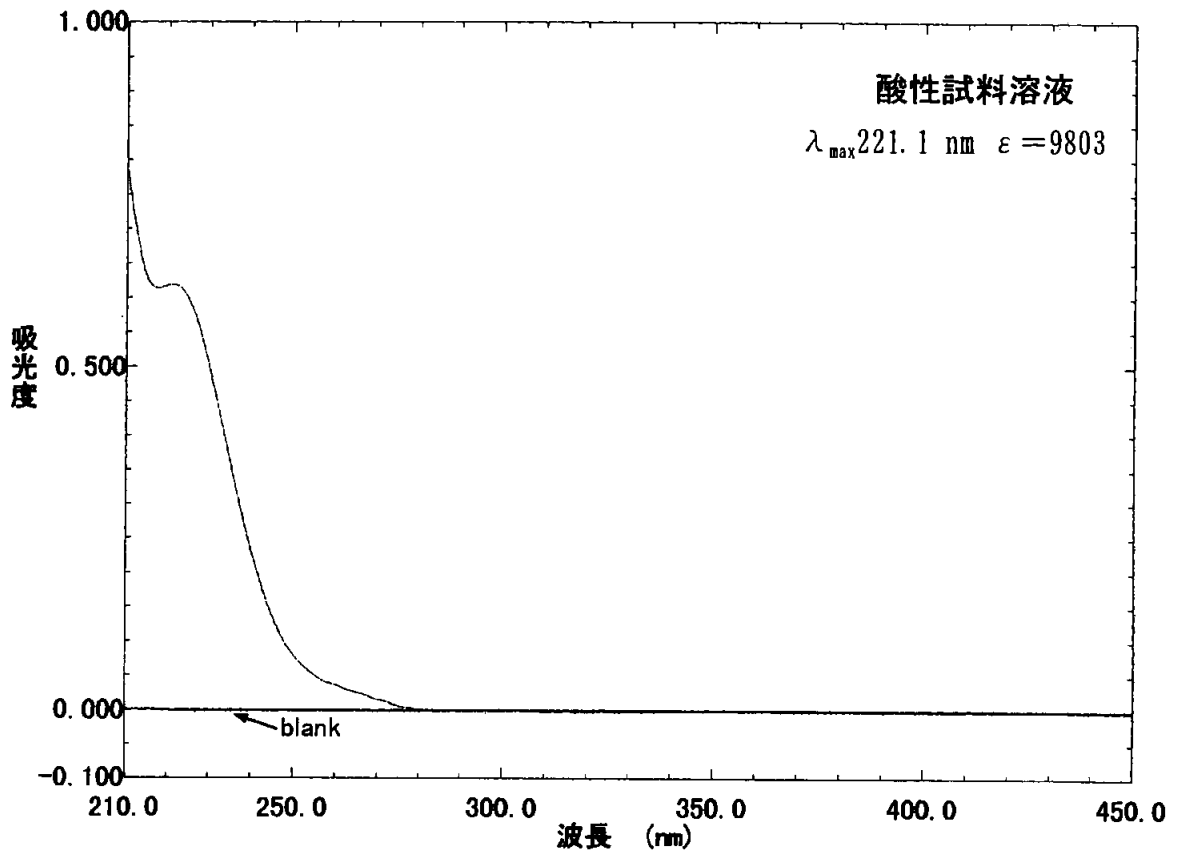


図3 紫外可視吸収スペクトル (酸性条件下)

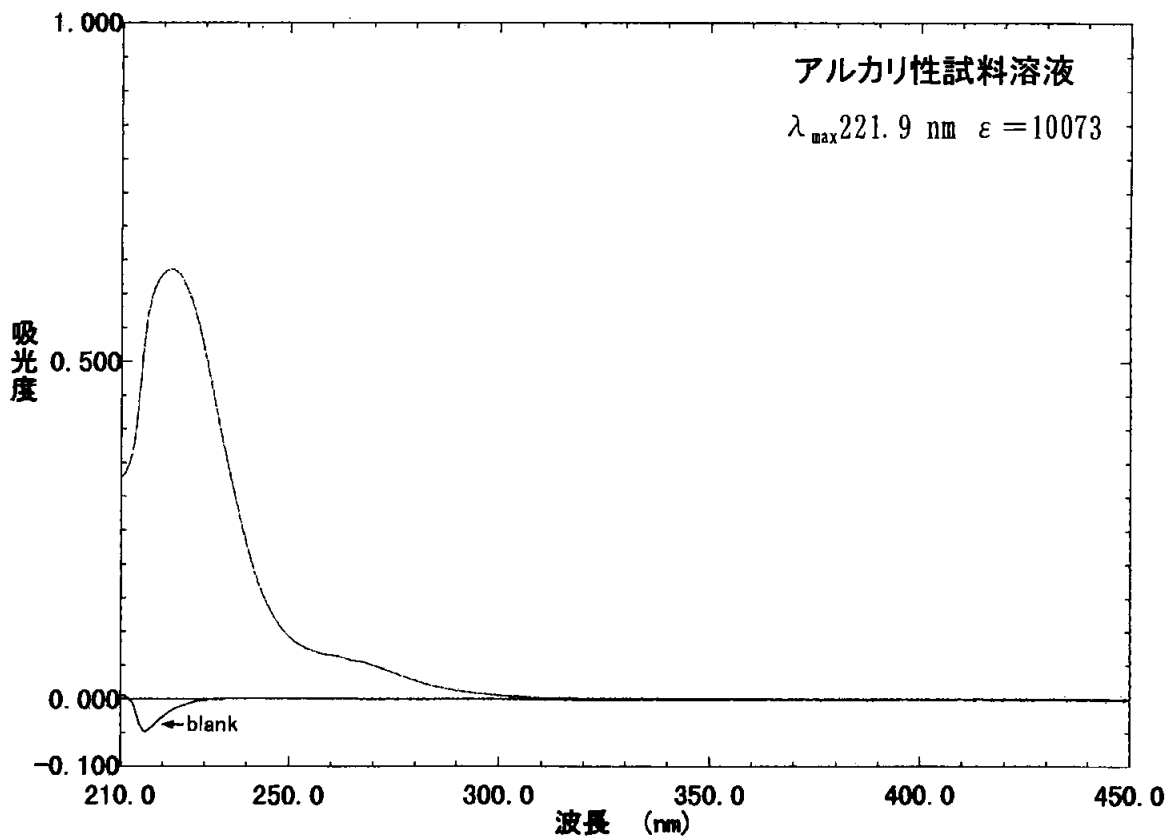


図4 紫外可視吸収スペクトル (アルカリ性条件下)

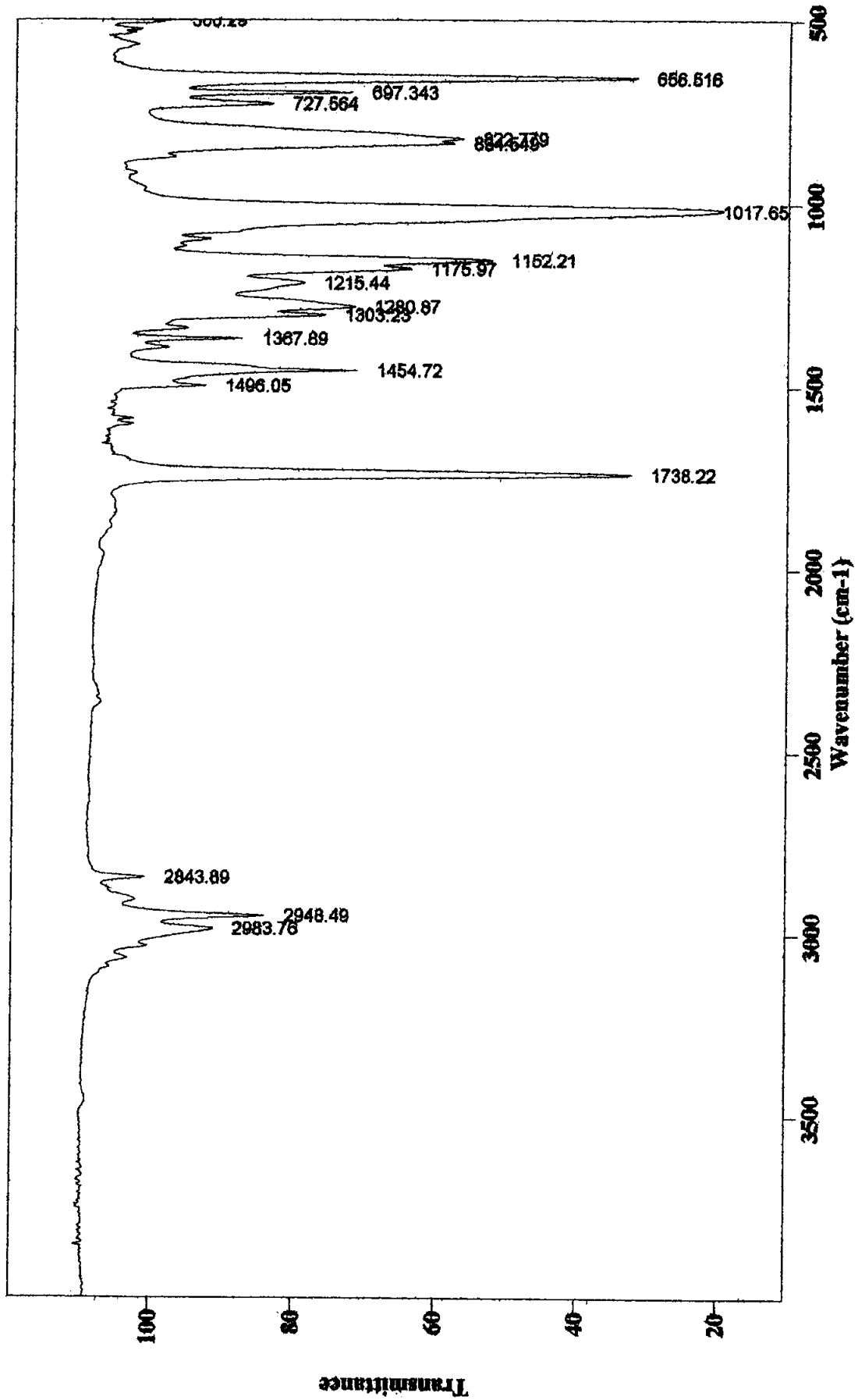
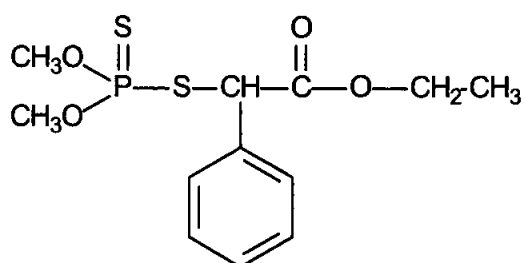


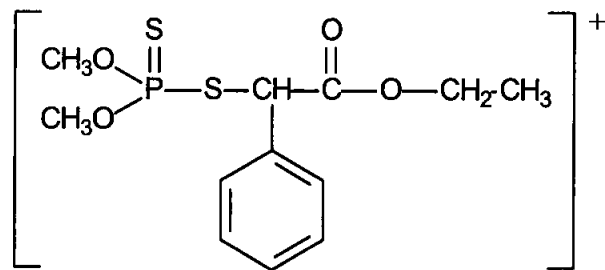
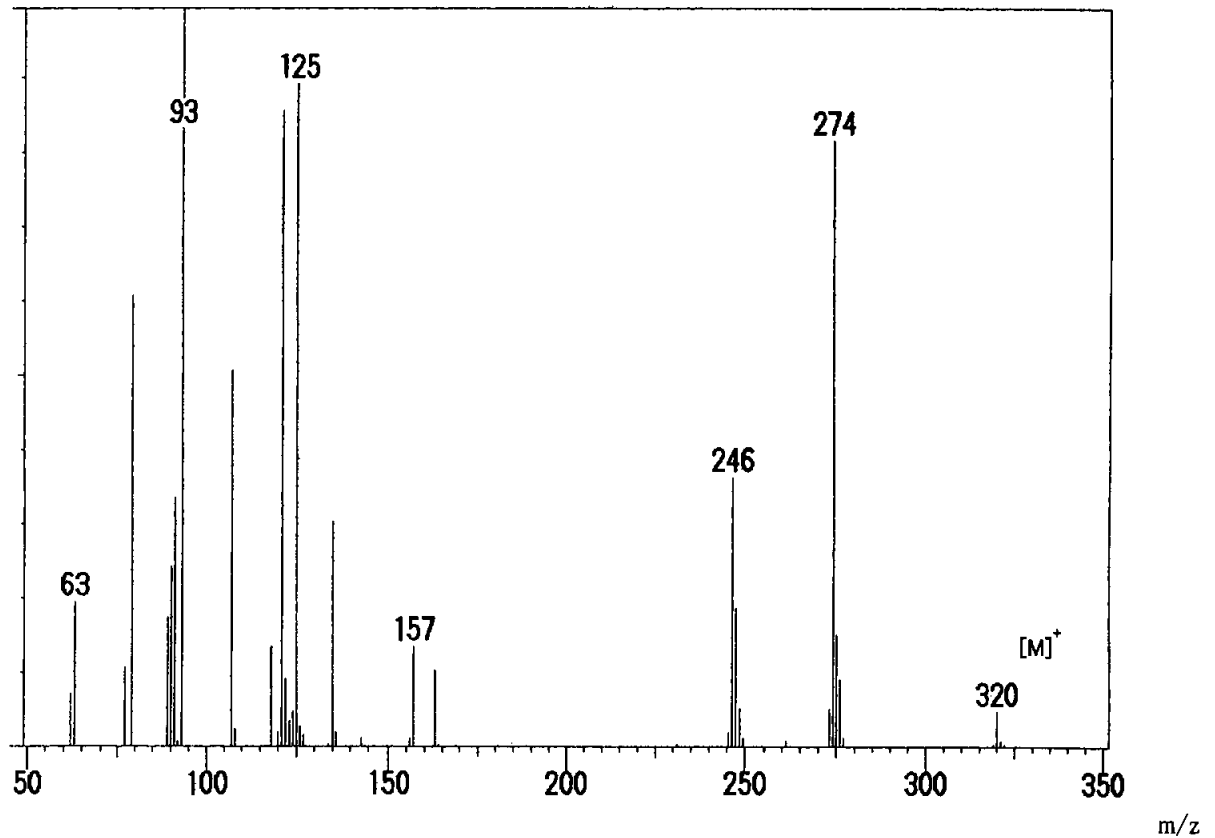
図5 赤外吸収スペクトル

表1 主要な特性吸収帯の位置、帰属及びPAPの構造式

波数 (cm ⁻¹)	帰属 (推定)
2844~2984	C-H伸縮振動
1738	C=O伸縮振動 (-COOCH ₂ CH ₃)
1455~1496	C-C環伸縮振動 またはC-H変角振動
1152~1176	C-O伸縮振動 (-COOCH ₂ CH ₃)
1018	C-O伸縮振動
822.8~894.5	P=S伸縮振動
697.3~727.6	芳香族C-H面外変角振動
656.5	P=S伸縮振動



Lucy Version 2.31 C:\LUCY\GLP.SPA 01/13/00 17:29:47
Scan 57-420 BP= 93.02[7228416] TIC=57839132 RT=00:00:50.31



m/z = 320

図6 質量スペクトル (DI-EI) 及びPAPの構造式

表2 フラグメントイオンの帰属

m/z	フラグメントイオンの帰属 (推定)
320	分子イオン
274	$\left[\begin{array}{c} \text{S} \\ \parallel \\ \text{CH}_3\text{O}-\text{P}-\text{S}-\text{CH}-\text{C} \cdot \\ \parallel \\ \text{O} \\ \\ \text{C}_6\text{H}_5 \\ - \text{H} \end{array} \right]^+$
246	$\left[\begin{array}{c} \text{S} \\ \parallel \\ \text{CH}_3\text{O}-\text{P}-\text{S}-\dot{\text{C}}\text{H} \\ \\ \text{C}_6\text{H}_5 \end{array} \right]^+$
157	$\left[\begin{array}{c} \text{S} \\ \parallel \\ \text{CH}_3\text{O}-\text{P}-\text{S} \cdot \\ \\ \text{CH}_3\text{O} \end{array} \right]^+$
125	$\left[\begin{array}{c} \text{S} \\ \parallel \\ \text{CH}_3\text{O}-\text{P} \cdot \\ \\ \text{CH}_3\text{O} \end{array} \right]^+$
121	$\left[\begin{array}{c} \text{S}=\text{C} \cdot \\ \\ \text{C}_6\text{H}_5 \end{array} \right]^+$
93	$\left[\begin{array}{c} \text{CH}_3\text{O} \\ \diagdown \\ \text{P} \cdot \\ \diagup \\ \text{CH}_3\text{O} \end{array} \right]^+$

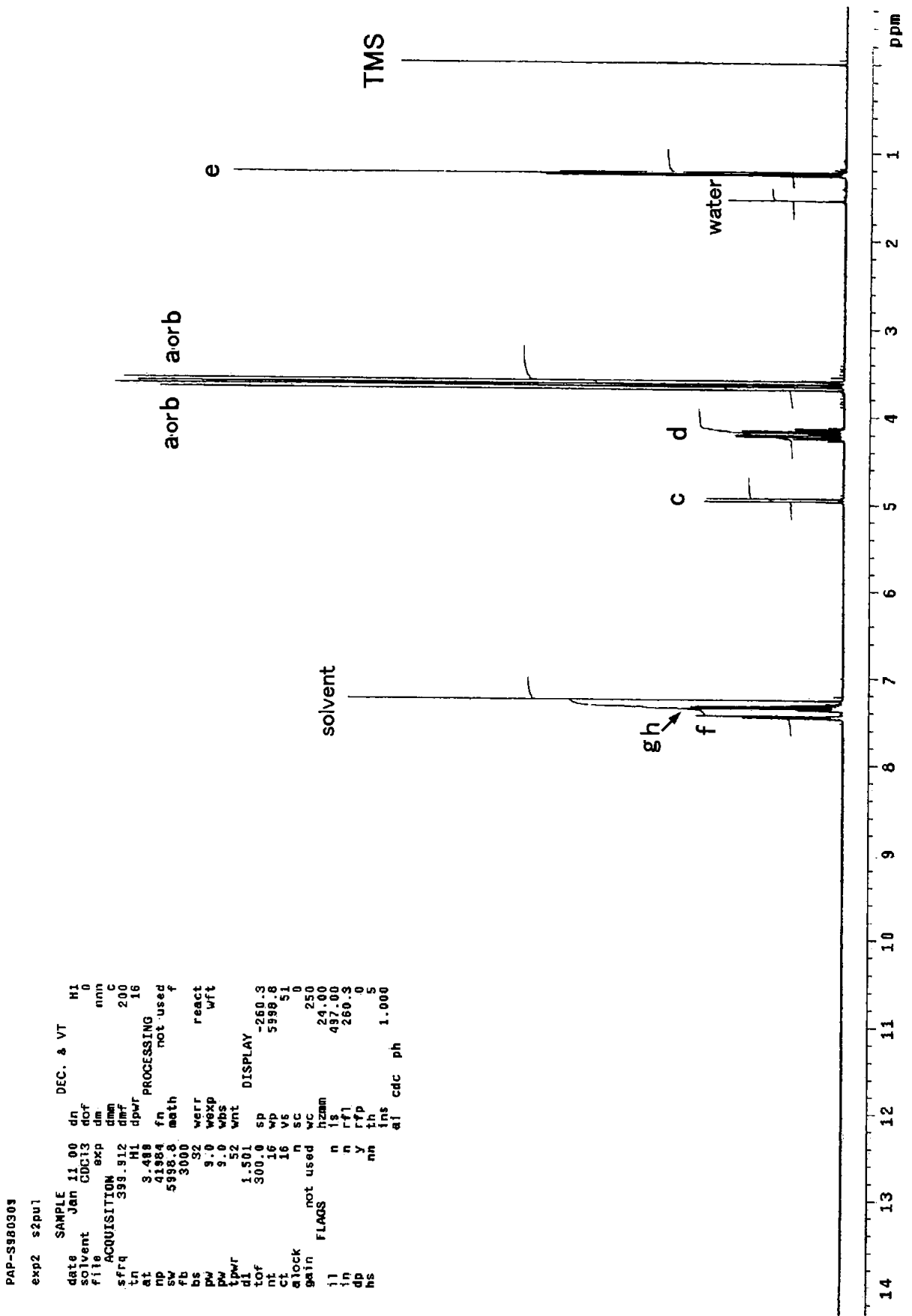
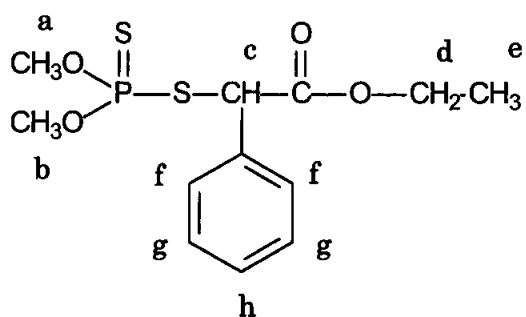


図7 ^1H -核磁気共鳴スペクトル

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

表3 $^1\text{H-NMR}$ のシグナルの帰属及びPAPの構造式

化学シフト (ppm)	多重度	プロトン数	帰属 (推定)
7.45	multiplet	2	f
7.34	multiplet	3	g and h
7.26	singlet	-	溶媒
4.96	doublet	1	c
4.20	multiplet	2	d
3.68	doublet	3	a or b
3.62	doublet	3	a or b
1.55	singlet	-	水
1.25	triplet	3	e
0.00	singlet	-	TMS



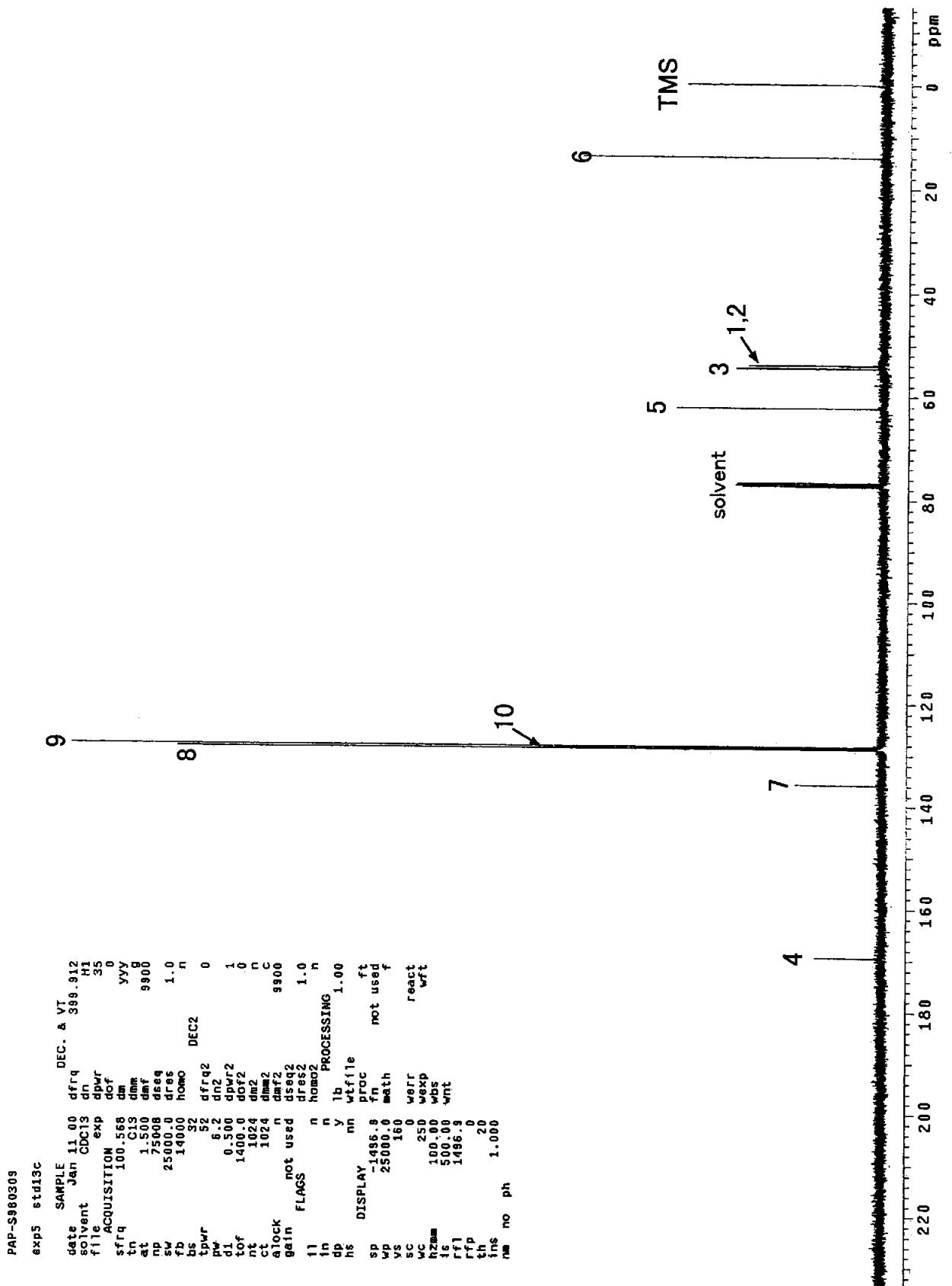
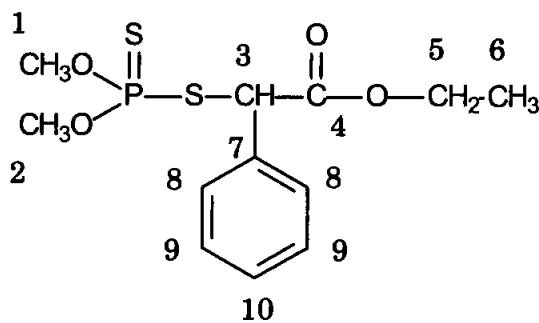


図8 ^{13}C -核磁気共鳴スペクトル

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

表4 ^{13}C -NMRのシグナルの帰属及びPAPの構造式

化学シフト (ppm)	帰属 (推定)
169.5	4
135.9	7
128.8	8
128.6	10
128.4	9
77.1	溶媒
62.3	5
54.6	3
54.0	1 or 2
54.0	1 or 2
14.0	6
0.0	TMS



3. 原体の成分組成

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量 (%)	
	一般名	化学名				規格値	通常値
有効成分	PAP	<i>S</i> - α -イソキカルボニルペンジル- <i>O</i> , <i>O</i> -ジメチルホスホロジチオアト	別表①	$C_{12}H_{17}O_4PS_2$	320.4		
原体混在物							

別表

	名 称		構造式
	一般名	化学名	
①	PAP	<i>S</i> - α -イソキカルボニルベンジル- 0,0-ジメチルホスホジチオアト	$ \begin{array}{c} \text{H}_3\text{CO} \quad \text{S} \quad \text{H} \\ \diagdown \quad \parallel \quad \\ \text{P} - \text{S} - \text{C} - \text{COOC}_2\text{H}_5 \\ \diagup \\ \text{H}_3\text{CO} \\ \text{C}_6\text{H}_5 \end{array} $

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

別表 (つづき)

	名 称		構造式
	一般名	化学名	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

4. 製剤の組成

(1) 50.0%乳剤 (エルサン乳剤)

PAP	50.0%
乳化剤、有機溶剤 等	50.0%

(2) 40.0%水和剤 (エルサン水和剤40)

PAP	40.0%
鉍物質粉末 等	60.0%

(3) 3.0%粉剤 (エルサン粉剤3DL)

PAP	3.0%
鉍物質微粉、凝集剤 等	97.0%

Ⅲ. 生物活性

1. 活性の範囲

PAP は極めて幅広い殺虫スペクトラムを有する化合物である。

PAP の殺虫スペクトラムは以下のとおりである。

鱗翅目害虫：ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、シンクイムシ類、ヨトウムシ、

ハスモンヨトウ、メイガ類、ハマキムシ類、コナガ類

半翅目害虫：ウンカ類、ヨコバイ類、アブラムシ類、カイガラムシ類、カメムシ類等

甲虫目害虫：ハムシ類、テントウムシ類、ゾウムシ類、カミキリムシ類等

双翅目害虫：ハモグリバエ類

膜翅目害虫：ハバチ類

アザミウマ目害虫：アザミウマ類

2. 作用機構

PAP は植物体内への浸透移行作用は少なく、害虫に対し接触毒、もしくは食毒的に作用する。

作用機構は他の有機リン系殺虫剤と同様に、アセチルコリンエステラーゼ活性を阻害することにより殺虫活性を発揮する。一方、温血動物に対して選択的に低毒性である。これは、PAP が生体内で薬物代謝酵素により、オクソン型 (P=O) に酸化的脱硫化反応を受け、毒性を発現するが、温血動物の場合は肝や血清のカルボキシエステラーゼやグルタチオントランスフェラーゼなどでオクソンが酵素分解を受け、解毒される。昆虫ではこの解毒作用が弱く、アセチルコリンエステラーゼを阻害し、殺虫活性が発現することが知られている。

3. 作用特性と防除の利点

PAP は広範な殺虫スペクトラムを有し、種々の作物および害虫に対して、幅広い防除が可能である。

また、乳剤、水和剤、粉剤、粉剤 DL の剤型があり、それぞれの使用場面で使い分けが出来る点も、PAP の防除上の利点になっている。

IV. 適用及び使用上の注意

1. 適用病害虫の範囲及び使用方法

[エルサン粉剤2]

(PAP : 2.0%)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	PAPを含む 農薬の総 使用回数
稲	ニカメイチュウ第1世代	3kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
	ニカメイチュウ第2世代	4kg/10a				
	サカメイチュウ第3世代	4.5kg/10a				
	ツマグロヨコバイ ヒメビロウカ セジロウカ イネノウムシ成虫 アブラムシ類	3~4kg/10a				
	イネモガリハエ イネヒメモガリハエ イネノロイムシ	3kg/10a				
	フタバコヤガ カメムシ類	4kg/10a				
キャベツ	アオムシ コガ アブラムシ類 ハスモントウ	3kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
カリフラワー			収穫30日前まで			
ブロッコリー			収穫21日前まで			
はくさい			収穫30日前まで			
だいこん			収穫21日前まで			
かぶ			収穫7日前まで			
レタス			収穫14日前まで			
かんしょ			2回以内			
ばれいしょ			1回			
さといも	2回以内					
だいず	ハスモントウ マメシクイガ	4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
	シロイモジ マダラメイガ	3~4kg/10a				
くり	モロコ マダラメイガ	4~6kg/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内
茶	チャドクガ	4kg/10a	最終摘採後から 冬期まで	2回以内	散布	2回以内
	コカモンハマキ	6kg/10a				
桑	ヒシエンヨコバイ クワヒメジ ウムシ	3kg/10a	摘採15日前まで	-	散布	-
たばこ	ハスモントウ タバコアオムシ	3~5kg/10a	-	-	散布	-
小麦	ヒメビロウカ アブラムシ類 ムギアカマハエ ムギダニ	3kg/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内

[エルサン粉剤3DL]

(PAP: 3.0%)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	PAPを含む 農業の 総使用回数
稲	ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネドロオイムシ フタオビコヤガ カメムシ類	3kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
みかん	カメムシ類	6kg/10a	収穫14日前まで			
だいず	シロイチモジマダラメイガ カメムシ類	3~4kg/10a	収穫7日前まで			
	ハスモンヨトウ	4kg/10a				

[日産エルサン水和剤40]

(PAP: 40.0%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用 方法	PAP を含む 農業の総 使用回数
りんご	クワコナカイガラムシ モモシンクイガ ハマキムシ類 マイマイガ幼虫 モモチョッキリゾウムシ カメムシ類	1000倍	200~700 L/10a	収穫45日前まで	2回以内	散布	2回以内 (樹幹散布は 1回以内)
なし	ハマキムシ類 ナシミハバチ	800倍		収穫60日前まで			
	クワコナカイガラムシ カメムシ類 アブラムシ類 シンクイムシ類 ナシキジラミ	800~1000倍					
みかん	ヤノネカイガラムシ サンホーゼカイガラムシ アカマルカイガラムシ ハマキムシ類 ミカンハモグリガ ミカンコナジラミ アブラムシ類	800倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	2回以内	
キャベツ	アオムシ コナガ	800~1000倍	100~300 L/10a				収穫30日前まで
カリフラワー							収穫21日前まで
ブロッコリー							
はくさい				2回以内	3回以内		
だいこん かぶ	2回以内	2回以内					
かき	カメムシ類	800倍	200~700 L/10a	収穫30日前まで	4回以内	4回以内	

[日産エルサン乳剤]

(PAP : 50.0%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	PAPを含む農薬の総使用回数
くり	モモノゴマダラノメイガ クリイガアブラムシ カツラマルカイガラムシ 若齢幼虫	1000倍	200~700 L/10a	収穫14日 前まで	4回以内	散布	4回以内
カリフラワー	アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ キスジノミハムシ	1000~2000倍	100~300 L/10a		収穫30日 前まで		2回以内
	ヨトウムシ カブラハバチ幼虫 ハスモンヨトウ アザミウマ類	1000倍					
	コナガ	1000~1500倍					
ブロッコリー	アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ キスジノミハムシ	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫21日 前まで	3回以内	散布	3回以内
	ヨトウムシ カブラハバチ幼虫 ハスモンヨトウ アザミウマ類	1000倍					
	コナガ	1000~1500倍					
はくさい	アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ キスジノミハムシ	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫21日 前まで	3回以内	散布	3回以内
	ヨトウムシ カブラハバチ幼虫 ハスモンヨトウ アザミウマ類	1000倍					
	コナガ	1000~1500倍					
ほうれんそう	アブラムシ類	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫21日 前まで	3回以内	散布	3回以内
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ	1000倍					
ほうれんそう	アブラムシ類	1000~2000倍	200~700 L/10a	収穫14日 前まで	4回以内	散布	4回以内
ほうれんそう	ヨトウムシ ハスモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫30日 前まで	2回以内	散布	2回以内
ほうれんそう	アブラムシ類	1000~2000倍	200~700 L/10a	収穫14日 前まで	4回以内	散布	4回以内
ほうれんそう	ヨトウムシ ハスモンヨトウ	1000倍	200~700 L/10a	収穫14日 前まで	4回以内	散布	4回以内
ほうれんそう	アブラムシ類	1000~2000倍	200~700 L/10a	収穫14日 前まで	4回以内	散布	4回以内
ほうれんそう	ヨトウムシ ハスモンヨトウ	1000倍	200~700 L/10a	収穫14日 前まで	4回以内	散布	4回以内
ほうれんそう	アブラムシ類	1000~2000倍	200~700 L/10a	収穫14日 前まで	4回以内	散布	4回以内
ほうれんそう	ヨトウムシ ハスモンヨトウ	1000倍	200~700 L/10a	収穫14日 前まで	4回以内	散布	4回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	PAPを含む農薬の総使用回数
だいこん	アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ キスジノミハムシ	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫30日 前まで	2回以内	散布	2回以内
	ヨトウムシ カブラハバチ幼虫 ハスモンヨトウ アザミウマ類	1000倍					
	コナガ	1000~1500倍					
かぶ	アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ キスジノミハムシ	1000~2000倍					
	ヨトウムシ カブラハバチ幼虫 ハスモンヨトウ アザミウマ類	1000倍					
	コナガ	1000~1500倍					
レタス	ダイコンハムシ オオニジュウヤホシテントウ	1000~2000倍					
	アブラムシ類 ヨトウムシ ハスモンヨトウ	1000倍					
すいか しろり	アブラムシ類	1000~2000倍		収穫21日 前まで	3回以内		3回以内
まくわうり	アザミウマ類	1000倍					
メロン	アブラムシ類	1000~2000倍		収穫3日 前まで	4回以内		4回以内
	アザミウマ類	1000倍					
かぼちゃ	アブラムシ類	1000~2000倍		収穫7日 前まで	3回以内		3回以内
	アザミウマ類	1000倍					
ごぼう	アブラムシ類	1000~2000倍	収穫90日 前まで	1回	1回		
にんじん	ヨトウムシ ハスモンヨトウ	1000倍					
ねぎ	アブラムシ類	1000~2000倍	収穫21日 前まで	2回以内	2回以内		
	アザミウマ類	1000倍					
たまねぎ	アブラムシ類	1000~2000倍	収穫7日 前まで	2回以内	2回以内		
	アザミウマ類	1000倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	PAPを含む農薬の総使用回数
かんしょ	ヒルガオハモグリガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
ばれいしょ	アブラムシ類 ニジュウヤホシテントウ	1000~2000倍		収穫14日前まで	2回以内		2回以内
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ	1000倍		収穫7日前まで	1回		1回
さといも	アブラムシ類	1000~2000倍	1000 L/10a		最終摘採後から 冬期まで		2回以内
	ハスモンヨトウ	1000倍		200~400 L/10a			
茶	クワシロカイガラムシ						
	チャドクガ	1000~1500倍					
	コカクモンハマキ		1000~1500倍				
豆類 (種実、ただし、 らっかせい、 だいず、あずき、 いんげんまめ、 えんどうまめを 除く)	アブラムシ類	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫21日前まで	2回以内	2回以内	
だいず	アブラムシ類	1000~2000倍		収穫7日前まで			
	マメシクイガ カメムシ類 ハスモンヨトウ ツメクサガ	1000倍					
	シロイチモジマダラメイガ	1500~2000倍					
	あずき	アブラムシ類					1000~2000倍
あずき	フキノメイガ	1000倍					
	いんげんまめ	アブラムシ類	1000~2000倍				
いんげんまめ	フキノメイガ インゲンテントウ	1000倍					
	えんどうまめ	アブラムシ類	1000~2000倍				
エンドウハモグリバエ		1000~1500倍					
ヨトウムシ ハスモンヨトウ		1000倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	PAPを含む農薬の総使用回数
未成熟そらまめ	アブラムシ類	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
さやいんげん	アブラムシ類	1000~2000倍					
	フキノメイガ インゲンテントウ	1000倍					
さやえんどう	アブラムシ類	1000~2000倍		60~150 L/10a	収穫28日前まで		1回
	エンドウハモグリバエ	1000~1500倍					
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ	1000倍					
小麦	アブラムシ類 ムギクロハモグリバエ アワヨトウ ムギキモグリバエ	1000倍	60~150 L/10a	収穫7日前まで	4回以内		4回以内
わけぎ	アザミウマ類			100~300 L/10a			
アスパラガス	ジュウシホシクビナガハムシ			100~300 L/10a	収穫3日前まで		2回以内
桑	クワノメイガ ハゴロモ類	1000~1500倍	120L/10a	摘採15日前まで	4回以内		4回以内
	ヒシモンヨコバイ	1500~2000倍					
	クワシロカイガラムシ	1000倍					
	ヒメコシンクイ	1200倍					
	クワヒメゾウムシ カミキリムシ類	200~300倍		萌芽前まで			
きく	キクヒメヒゲナガアブラムシ	1000~2000倍	100~300 L/10a	-	2回以内	2回以内	
稲	ニカメイチュウ第1世代	1000~1500倍	60~150 L/10a	収穫7日前まで			
	ニカメイチュウ第2世代 サンカメイチュウ第3世代	800~1000倍					
	ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ イネヒメハモグリバエ	1500~2000倍					
	カメムシ類 アブラムシ類 フタオビコヤガ	1000倍					
	イネドロオイムシ	1000~2000倍					
	イネハモグリバエ	2000倍					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	PAPを含む農薬の総使用回数
かんきつ	ヤノネカイガラムシ アブラムシ類	1000～1500倍	200～700 L/10a	収穫14日 前まで	2回以内	散布	2回以内
	ミカンサビダニ ミカントゲコナジラミ ミカンコナジラミ ハマキムシ類 ミカンハモグリガ トビロマルカイガラムシ サンホーゼカイガラムシ アカマルカイガラムシ コナカイガラムシ類 カメムシ類 アザミウマ類 ケシキスイ類 ゴマダラカミキリ成虫	1000倍					
キャベツ	アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ キスジノミハムシ	1000～2000倍	100～300 L/10a				
	ヨトウムシ カブラハバチ幼虫 ハスモンヨトウ アザミウマ類	1000倍					
	コナガ	1000～1500倍					
とうもろこし	アワノメイガ				4回以内		4回以内
食用ゆり	アブラムシ類	1000倍		収穫7日 前まで	3回以内		3回以内

[ボーラーカット]

(ダイアジノン・NAC・PAP乳剤 (PAP:25.0%))

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む農薬の総使用回数	NACを含む農薬の総使用回数	PAPを含む農薬の総使用回数
大粒種ぶどう 小粒種ぶどう	ブドウカミキリ	200～300倍	200～350 L/10a	発芽前 (休眠期)	1回	散布	2回以内	1回	2回以内
							1回		
もも	コカガ	200倍			3回以内	被害 樹幹部に 散布	4回以内 (休眠期は 3回以内)	3回以内	3回以内

[ラビキラー乳剤]

(MEP・PAP乳剤 (PAP : 10.0%))

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	MEP を含む 農薬の 総使用回数	PAP を含む 農薬の 総使用回 数
みかん	ゴマダカミキリ	200 倍	200~350 L/10a	産卵初期～ 幼虫食入初期 但し、収穫 14日前まで	1回	樹幹部から 地際部へ 散布する。	5回以内 (樹 幹処理は1 回以内)	2回以内
りんご				産卵初期～ 産卵最盛期 但し、収穫 30日前まで			3回以内	2回以内 (樹幹散布 は1回以 内)
ぶどう	ブドウカミキリ	200 ～ 300 倍		発芽前 (休眠期)	2回以内	母枝、 古つるに 薬液を十分 散布する。	4回以内 (収穫終了後 から 萌芽までは 2回以内、 萌芽後は 2回以内)	2回以内
もも	コスカシバ	200 倍		落葉後～ 発芽前 (休眠期)	1回	樹幹及び 主枝に十分 散布する。	6回以内 (樹幹処理は 1回以内)	3回以内
おうとう			2回以内 (樹幹処理及 び灌注処理 は合計1回 以内)				2回以内	
うめ			2回以内					

2. 使用上の注意事項

〔日産エルサン粉剤2〕

(PAP : 2.0%)

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使い切ること。
- (2) ハスモンヨトウの防除に使用する場合、幼虫が大きくなると効果が劣るので若令幼虫期に散布すること。
- (3) 稲に使用する場合は、散布後少なくとも3日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (4) 小麦のムギアカタマバエの防除に使用する場合、出穂期から穂揃期にかけて散布すること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (6) 蚕に対して影響があるので、本剤を桑に散布した場合は15日以上経過してから蚕に給与すること。

〔日産エルサン粉剤3DL〕

(PAP : 3.0%)

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使い切ること。
- (2) 本剤はできるだけ飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ、見掛け比重がやや大きく、流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を1目盛り程度しぼって散布すること。
- (3) 稲に使用する場合は、散布後少なくとも3日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ②養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

[日産エルサン水和剤40]

(PAP: 40.0%)

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ること。
- (2) 石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさけるか、散布直前に混合すること。
- (3) りんごに使用する場合、旭種に対しては薬害を生ずるおそれがあるので使用しないこと。また、混植園ではかからないように注意して散布すること。
- (4) 赤色系りんごに対しては、8月以後の使用をさけること。
- (5) ぶどうには薬害を生ずるおそれがあるのでかからないように注意すること。
- (6) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (7) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないように注意すること。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。

[日産エルサン乳剤]

(PAP: 50.0%)

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ること。
- (2) 石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさけること。
- (3) 稲に使用する場合は、散布後少なくとも3日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (4) ぶどうには薬害のおそれがあるので、かからないように注意すること。
- (5) 蚕に対して影響があるので、本剤を桑に散布した場合は15日以上経過してから蚕に給与すること。
- (6) 桑のカミキリムシ、ヒメゾウムシの防除に200~300倍液を散布する場合は、蚕に影響があるので越冬期及び夏切り直後、春切り直後など桑の萌芽前に使用すること。
- (7) ハスモンヨトウの防除に使用する場合、幼虫が大きくなると効果が劣るので若令幼虫期に散布すること。
- (8) 本剤は自動車に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないように注意すること。
- (9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (10) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

[ボーラーカット]

(ダイアジノン・NAC・PAP乳剤 (PAP:25.0%))

- (1) 使用液に合わせ薬液を調製し、使い切ること。
- (2) 樹幹部及び主枝に薬液がしたたり落ちる程度にむらなく十分に散布すること。
- (3) 薬液が葉にかかると薬害を生じる恐れがあるのでかからないよう散布し、特に新葉時期は薬害が生じ易いので注意すること。
- (4) そさい類にかかると薬害を生じるので、付近にある場合はかからないように注意すること。
- (5) アルカリ性薬剤との混用は避けること。
- (6) 養魚田や養魚池に流れ込む危険のある所での使用はさけること。
- (7) ぶどう、ももに使用する場合、発芽後には新芽に薬害を生ずるので必ず発芽前に散布すること。
- (8) コスカシバに対しては加害部に十分散布すること。あらかじめ虫糞、粗皮等を取り除いてから散布すると効果的である。
- (9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (10) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (11) 本剤は自動車などの塗装面に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。

[ラビキラー乳剤]

(MEP・PAP乳剤 (PAP:10.0%))

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ること。
- (2) 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさけること。
- (3) ぶどう、もも、おうとう、うめに散布する場合、使用時期が遅れると新芽、新葉に薬害を生ずるおそれがあるので、必ず休眠期中に散布すること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (6) みかん、りんごのゴマダラカミキリに使用する場合、散布液が葉にかかると薬害を生ずるおそれがあるので、かからないように樹幹部から地際部へ散布すること。
- (7) 本剤が他の農作物の葉にかかると薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (8) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。

3. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

[日産エルサン粉剤2] (PAP: 2.0%)

[日産エルサン粉剤3DL] (PAP: 3.0%)

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。比較的低濃度でも魚が平衡失調等を起こすので、養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物(甲殻類、ボラ、マス)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[日産エルサン水和剤40]

(PAP: 40.0%)

- (1) 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[日産エルサン乳剤]

(PAP: 50.0%)

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。比較的低濃度でも魚が平衡失調等を起こすので、養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物(甲殻類、ボラ、マス)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (4) 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[ボーラーカット]

(ダイアジノン・NAC・PAP乳剤 (PAP:25.0%))

- (1) 水産動植物 (甲殻類) に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[ラビキラー乳剤]

(MEP・PAP乳剤 (PAP:10.0%))

- (1) 水産動植物 (甲殻類) に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

V. 残留性及び環境中予測濃度算定関係

1. 作物残留性

(1) 分析法の原理と操作概要

試料をアセトンで抽出し、n-ヘキサンに転溶する。n-ヘキサン・アセトニトリル分配、各種カラムクロマトグラフィー（C₁₈ミニカラム、グラファイトカーボンミニカラム、フロリジルミニカラム等）で精製し、ガスクロマトグラフ（FPD、NPD）を用いて定量する。

(2) 分析対象の化合物

化学名：S-α-エトキシカルボニルベンジル=O, O-ジメチル=ホスホロジチオアート

分子式：C₁₂H₁₇O₄PS₂

分子量：320.36

代謝経路図中での記号：A

(3) 残留分析結果

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						-			
1	水稻 (玄米) 昭和48年度	乳剤(50%) 700倍 180L/10a(埼玉) 200L/10a(熊本) 散布	埼玉農試	0	-	-	-	<0.004	<0.004
				5	7	-	-	0.039	0.035
				5	14	-	-	0.031	0.028
				5	21	-	-	0.034	0.030
	熊本天草 農業研究 指導所		0	-	-	-	<0.004	<0.004	
			6	7	-	-	<0.004	<0.004	
			5	14	-	-	<0.004	<0.004	
			5	21	-	-	<0.004	<0.004	
	水稻 (稲わら) 昭和48年度		埼玉農試	0	-	-	-	<0.008	<0.008
				5	7	-	-	4.07	3.97
				5	14	-	-	3.35	3.27
				5	21	-	-	2.25	2.14
熊本天草 農業研究 指導所		0	-	-	-	<0.008	<0.008		
		6	7	-	-	2.14	2.06		
		5	14	-	-	1.92	1.85		
		5	21	-	-	0.878	0.869		
2	水稻 (玄米) 昭和46年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	日産化学 工業(株)	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				4	7	-	-	0.038	0.034
				4	14	-	-	0.019	0.018
				4	21	-	-	0.009	0.008

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						P A P		P A P	
						最高値	平均値	最高値	平均値
122	水稻 (玄米) 平成19年度	乳剤(50%) 800倍 150L/10a 散布	日植防高知	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	0.008	0.008	<0.005	<0.005
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			日植防宮崎	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	6	0.019	0.018	0.011	0.010
				2	13	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	20	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	日植防高知		0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			2	7	0.66	0.66	0.97	0.96	
			2	14	0.14	0.14	0.11	0.11	
			2	21	0.22	0.22	0.09	0.09	
	日植防宮崎		0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			2	6	0.75	0.72	0.78	0.78	
			2	13	0.20	0.20	0.32	0.32	
			2	20	0.18	0.18	0.31	0.30	
91	水稻 (玄米) 平成6年度	乳剤(50%) 300倍 25L/10a 散布	石川植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	0.006	0.006	0.005	0.005
				3	7	<0.005	<0.005	0.007	0.006
			三重植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	0.009	0.008	0.007	0.007
				3	7	0.018	0.018	0.012	0.011
			栃木防除所	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
	3			7	-	-	<0.005	<0.005	
	長野植防 松代		0	-	-	-	<0.005	<0.005	
			2	7	-	-	0.006	0.006	
			3	7	-	-	0.007	0.007	
	石川植防		0	-	<0.005	<0.005	-	-	
			2	7	0.299	0.287	-	-	
			3	7	0.101	0.098	-	-	
	三重植防		0	-	<0.005	<0.005	-	-	
2		7	1.10	1.08	-	-			
3		7	1.75	1.69	-	-			
水稻 (稻わら) 平成6年度	乳剤(50%) 300倍 25L/10a 散布	石川植防	0	-	<0.005	<0.005	-	-	
			2	7	0.299	0.287	-	-	
			3	7	0.101	0.098	-	-	
		三重植防	0	-	<0.005	<0.005	-	-	
			2	7	1.10	1.08	-	-	
			3	7	1.75	1.69	-	-	

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
92	水稻 (玄米) 平成5年度	乳剤(50%) 300倍 25L/10a 散布	日植防 研究所	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				3	7	-	-	0.005	0.005
				4	7	-	-	0.005	0.005
			日植防高知	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	0.013	0.012
				3	7	-	-	0.023	0.022
				4	7	-	-	0.018	0.017
	水稻 (わら) 平成5年度		日植防 研究所	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	0.335	0.335
				3	7	-	-	0.396	0.394
				4	7	-	-	0.300	0.300
			日植防高知	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	0.755	0.754
				3	7	-	-	1.29	1.28
				4	7	-	-	1.00	0.986
93	水稻 (玄米) 平成6年度	乳剤(50%) 800倍 100~120L/10a 散布	千葉農試 北総営農技	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	7	0.018	0.018	0.018	0.018
			日植防宮崎	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	7	0.012	0.012	0.008	0.008
			石川植防	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				3	7	-	-	0.008	0.008
	滋賀植防		0	-	-	-	<0.005	<0.005	
			3	7	-	-	0.006	0.005	
	水稻 (わら) 平成6年度		千葉農試 北総営農技	0	-	0.009	0.008	<0.005	<0.005
				3	7	0.789	0.766	<0.620	<0.617
			日植防宮崎	0	-	0.005	0.005	<0.005	<0.005
				3	7	0.462	0.448	0.338	0.322

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
77	水稲 (玄米) 平成2年度	粉剤 (3%) 4kg/10a 散布	滋賀植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	0.013	0.013	0.008	0.008
				4	7	0.016	0.016	0.008	0.008
				4	14	0.006	0.006	<0.005	<0.005
				4	21	0.005	0.005	<0.005	<0.005
			広島植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	0.005	0.005	<0.005	<0.005
				4	7	0.007	0.007	0.005	0.005
				4	14	0.005	0.005	<0.005	<0.005
				4	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
78	水稲 (稲わら) 平成2年度	粉剤 (3%) 4kg/10a 散布	滋賀植防	0	-	0.069	0.068	0.008	0.008
				2	7	0.578	0.574	0.666	0.644
				4	7	0.956	0.938	1.08	1.04
				4	14	0.527	0.508	0.795	0.778
				4	21	0.350	0.350	0.360	0.356
			広島植防	0	-	0.005	0.005	0.005	0.005
				2	7	0.253	0.252	0.130	0.128
				4	7	0.553	0.534	0.205	0.201
				4	14	0.240	0.240	0.188	0.178
				4	21	0.182	0.180	0.133	0.129
123	水稲 (玄米) 平成19年度	DL粉剤 (3%) 4kg/10a 散布	日植防高知	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			日植防宮崎	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	6	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	13	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	20	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	日植防高知		0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			2	7	0.16	0.16	0.25	0.24	
			2	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			2	21	<0.05	<0.05	0.05	0.05	
	日植防宮崎		0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			2	6	0.47	0.46	0.98	0.98	
			2	13	0.16	0.15	0.11	0.10	
			2	20	0.09	0.09	0.06	0.06	

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
19	水稻 (玄米) 昭和46年度	微粒剤 (3%) 4kg/10a 散布	滋賀農試	0	-	<0.002	<0.002	<0.001	<0.001
				2	57	0.002	0.002	<0.001	<0.001
				4	51	0.014	0.013	0.012	0.011
				6	36	0.009	0.008	0.017	0.017
			広島農試	0	-	<0.002	<0.002	<0.001	<0.001
				2	54	<0.002	<0.002	<0.001	<0.001
				4	47	0.002	0.002	0.005	0.003
				6	20	0.005	0.005	0.006	0.006
30	水稻 (玄米) 昭和54年度	a) 乳剤 (50%) 800倍、140L/10a 地上散布	茨城水戸 防除所	0	-	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
				1 ^a	93	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
				1 ^b	93	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
			栃木農試	0	-	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
				1 ^a	132	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
				1 ^b	132	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
	水稻 (稲わら) 昭和54年度	b) 微量散布用剤 (70%) 原液0.125L/10a 空中散布	茨城水戸 防除所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1 ^a	93	0.118	0.114	0.028	0.026
				1 ^b	93	0.048	0.046	0.024	0.022
			栃木農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1 ^a	132	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1 ^b	132	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
65	水稻 (玄米) 昭和63年度	a) 乳剤 (ゾル) (50%) 30倍、3L/10a 空中散布	新潟 農専技室 (小国町)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1 ^a	80	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1 ^b	77	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			新潟 農専技室 (越路町)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1 ^a	80	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1 ^b	77	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	水稻 (稲わら) 昭和63年度	b) 乳剤 (50%) 1000倍 100L/10a 地上散布	新潟 農専技室 (小国町)	0	-	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
				1 ^a	80	<0.01	<0.01	0.011	0.010
				1 ^b	77	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
			新潟 農専技室 (越路町)	0	-	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
				1 ^a	80	<0.01	<0.01	0.016	0.014
				1 ^b	77	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						P A P		P A P	
						最高値	平均値	最高値	平均値
130	水稻 (玄米) 昭和49年度	a) 乳剤 (50%) 1000倍 100L/10a 地上散布	千葉農試	0	-	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
				2	18 ^a	0.009	0.009	<0.005	<0.005
				2	14 ^b	0.004	0.004	<0.005	<0.005
			熊本農試	0	-	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
				1	41 ^a	0.002	0.002	0.014	0.012
				1	41 ^b	0.003	0.003	<0.005	<0.005
			秋田農試	0	-	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
				1	102 ^a	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
				1	102 ^b	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
	水稻 (稲わら) 昭和49年度	b) 液剤 (7077 ^μ ル) (45%) 8倍、0.8L/10a (千葉、熊本) 10倍、8.3L/10a (秋田) 空中散布	千葉農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				2	18 ^a	0.645	0.620	0.56	0.54
				2	14 ^b	0.215	0.208	0.25	0.24
			熊本農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				1	41 ^a	0.500	0.474	0.33	0.32
			1	41 ^b	0.334	0.308	0.30	0.28	
			秋田農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
1	102 ^a	<0.005		<0.005	<0.01	<0.01			
1	102 ^b	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01				
31	小麦 (種子) 昭和54年度	乳剤 (50%) 1000倍 150L/10a 散布	日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	7	0.015	0.015	0.012	0.011
				4	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			埼玉植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	6	0.110	0.105	0.080	0.078
				4	13	0.019	0.019	0.015	0.014
				4	20	0.006	0.006	<0.005	<0.005
				4	20	0.006	0.006	<0.005	<0.005
	日植防 研究所		0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			4	7	1.20	1.08	0.891	0.870	
			4	14	0.040	0.040	0.132	0.116	
			4	21	0.034	0.034	0.019	0.016	
			4	21	0.034	0.034	0.019	0.016	
			4	21	0.034	0.034	0.019	0.016	
			4	21	0.034	0.034	0.019	0.016	
埼玉植防	0	-	0.021	0.020	0.010	0.008			
	4	6	3.67	3.66	2.50	2.44			
	4	13	1.12	1.08	1.02	0.972			
	4	20	0.31	0.30	0.326	0.304			
小麦 (わら) 昭和54年度				0	-	0.021	0.020	0.010	0.008
				4	6	3.67	3.66	2.50	2.44
				4	13	1.12	1.08	1.02	0.972
				4	20	0.31	0.30	0.326	0.304
				4	20	0.31	0.30	0.326	0.304
				4	20	0.31	0.30	0.326	0.304
				4	20	0.31	0.30	0.326	0.304

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
32	小麦 (種子) 昭和54年度	乳剤 (50%) 8倍 0.8L/10a 空中散布	茨城下館 防除所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	9	0.023	0.021	0.034	0.034
				1	16	0.007	0.006	0.005	0.005
				1	23	0.026	0.022	<0.005	<0.005
				1	16+ 20*	0.008	0.008	<0.005	<0.005
			群馬 防除所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	13	0.005	0.005	<0.005	<0.005
				1	20	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	20+ 20*	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
*申請者注：慣行収穫後室温で20日間保存									
27	とうもろこし (生子実) 昭和51年度	乳剤 (50%) 1000倍 100~150L/10a (茨城) 600L/10a (長野) 散布	日植防 研究所	0	-	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
				4	7	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
				4	14	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
			長野農大 営農部	0	-	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
				4	7	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
				4	14	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
	とうもろこし (乾燥子実) 昭和51年度	乳剤 (50%) 1000倍 100~150L/10a (茨城) 800L/10a (長野) 散布	日植防 研究所	0	-	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
				4	7	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
				4	14	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
			長野農大 営農部	0	-	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
				4	7	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
				4	13	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
20	とうもろこし (生子実) 昭和47年度	微粒剤 (3%) 4kg/10a 散布	農林省 北海道農試	0	-	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
				2	24	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
				4	10	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
			北海道 中央農試	0	-	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
				2	24	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
				4	24	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
	農林省 北海道農試		0	-	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005	
			2	56	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005	
			4	42	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005	
	北海道 中央農試		0	-	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005	
			2	39	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005	
			4	39	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005	

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)					
						公的分析機関		社内分析機関			
						PAP		PAP			
						最高値	平均値	最高値	平均値		
42	とうもろこし (生食用子実) 昭和60年度	乳剤(50%) 1000倍 120L/10a 散布	北海道 十勝農試 (宗像圃場)	0	-	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
				1	14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
			北海道 十勝農試 (道下圃場)	1	30	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
				0	-	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
		乳剤(50%) 30倍 4L/10a 空中散布	北海道 十勝農試 (宗像圃場)	1	14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
				1	30	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
			北海道 十勝農試 (道下圃場)	0	-	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
				1	14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
	とうもろこし (飼料用 茎葉部) 昭和60年度	乳剤(50%) 1000倍 120L/10a 散布	北海道 十勝農試 (宗像圃場)	0	-	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
				1	14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
			北海道 十勝農試 (道下圃場)	1	30	<0.005	<0.005	0.001	0.001		
				0	-	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
		乳剤(50%) 30倍 4L/10a 空中散布	北海道 十勝農試 (宗像圃場)	1	14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
				1	30	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
			北海道 十勝農試 (道下圃場)	0	-	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
				1	14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001		
35	はとむぎ (子実) 昭和55年度	粉剤(2%) 4kg/10a(三重) 5kg/10a(岡山) 不明(宮城) 散布	三重農技 センター	0	-	-	-	<0.005	<0.005		
				2	57	-	-	<0.005	<0.005		
			岡山農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005		
				3	53	-	-	<0.005	<0.005		
			宮城農業 センター	0	-	-	-	<0.005	<0.005		
				不明	不明	-	-	<0.005	<0.005		

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
						公的分析機関		社内分析機関					
						P A P		P A P					
						最高値	平均値	最高値	平均値				
						-							
16	だいち (未熟子実) 昭和46年度	乳剤 (50%) 1000倍 100L/10a 散布	北海道農試	0	-	-	-	<0.001	<0.001				
				2	7	-	-	0.002	0.002				
				3	7	-	-	0.001	0.001				
	だいち (乾燥子実) 昭和46年度			0	-	-	-	<0.001	<0.001				
				2	50	-	-	<0.001	<0.001				
				3	50	-	-	<0.001	<0.001				
36	だいち (成熟子実) 昭和56年度	乳剤 (50%) a) 1000倍 150L/10a, 散布 b) 20倍, 3L/10a 空中散布	宮崎総農試	0	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002				
				3 ^a	48	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002				
				3 ^{b1}	48	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002				
			区1 ¹⁾ 区2 ²⁾	3 ^{b2}	48	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002				
				宮崎総農試	0	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002			
					3 ^a	10	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002			
	区1 ¹⁾ 区2 ²⁾		3 ^{b1}		10	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002				
			3 ^{b2}		10	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002				
			56		だいち (乾燥子実) 昭和62年度	乳剤 (50%) 1000倍 150L/10a 散布	山形農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
	2							10	-	-	<0.005	<0.005	
	日植防 研究所			0			-	-	-	<0.005	<0.005		
				2			14	-	-	<0.005	<0.005		
84		だいち (乾燥子実) 平成3年度		a) 乳剤〔ゾル〕 (50%) 8倍、0.8L/10a 無人ヘリ散布 b) 乳剤 (50%) 1500倍 150L/10a, 散布			栃木防除所 (宇都宮)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
								3 ^a	23	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	3 ^b		23		<0.005	<0.005		<0.005	<0.005				
	栃木防除所 (芳賀郡)		0		-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			3 ^a		23	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			1 ^b		23	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
85	だいち (乾燥子実) 平成2年度	a) 乳剤〔ゾル〕 (50%) 8倍、0.8L/10a 無人ヘリ散布 b) 乳剤 (50%) 1000倍 150L/10a, 散布	茨城防除所 (水戸)	3 ^a	32	-	-	<0.005	<0.005				
				3 ^b	32	-	-	<0.005	<0.005				
			栃木防除所 (芳賀郡)	0	-	-	-	<0.005	<0.005				
				2 ^a	64	-	-	<0.005	<0.005				
				2 ^b	64	-	-	<0.005	<0.005				
					64	-	-	<0.005	<0.005				

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						P A P		P A P	
						最高値	平均値	最高値	平均値
95	だいず (乾燥子実) 平成 14 年度	乳剤 (50%) 1000 倍 200L/10a (岩手) 150L/10a (三重) 散布	岩手植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	0.010	0.010	0.010	0.010
				2	14	0.010	0.010	0.009	0.008
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			三重植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
129	だいず (乾燥子実) 平成 19 年度	DL 粉剤 (3%) 4kg/10a 散布	北海道植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			石川植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
58	あずき (乾燥子実) 昭和63年度	乳剤 (50%) 1000倍 150L/10a 散布	福島植防	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	0.012	0.010
			新潟高冷地 農技センター	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	8	-	-	<0.005	<0.005
				2	15	-	-	<0.005	<0.005
97	あずき (乾燥子実) 平成 15 年度	乳剤 (50%) 1000 倍 150L/10a (北海道) 200L/10a (滋賀) 散布	北海道植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			滋賀植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	0.018	0.018	0.010	0.010
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
60	いんげんまめ (乾燥子実) 昭和63年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	石川植防	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
			福井農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
98	いんげんまめ (乾燥子実) 平成15年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a (北海道) 231L/10a(新潟) 散布	北海道植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	0.006	0.006	0.005	0.005
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			新潟植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
64	えんどうまめ (乾燥子実) 昭和63年度 平成元年度	乳剤(50%) 1000倍 330~340L/10a (岡山) 150L/10a (鹿児島) 散布	岡山農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	0.012	0.012
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
			鹿児島農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
99	えんどうまめ (乾燥子実) 平成17年度 平成18年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a (北海道) 200L/10a(宮崎) 散布	北海道植防 音更	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	3	-	-	0.026	0.026
				2	7	-	-	0.007	0.007
			日植防宮崎	2	14	-	-	0.006	0.006
				0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	3	-	-	0.006	0.006
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
62	そらまめ (乾燥子実) 昭和63年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a(千葉) 200L/10a(愛媛) 散布	千葉暖地 園試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
			愛媛農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)				
						公的分析機関		社内分析機関		
						PAP		PAP		
						最高値	平均値	最高値	平均値	
						-				
57	ばれいしょ (塊茎) 昭和62年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	北海道 北見農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005	
				2	14	-	-	<0.005	<0.005	
				3	14	-	-	<0.005	<0.005	
			日植防 研究所	0	-	-	-	<0.005	<0.005	
				2	14	-	-	<0.005	<0.005	
				3	14	-	-	<0.005	<0.005	
100	ばれいしょ (塊茎) 平成15年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a (北海道) 200L/10a(福島) 散布	北海道 中央農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			福島植防 郡山	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
					2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
2	14	<0.005	<0.005		<0.005	<0.005				
3	7	<0.005	<0.005		<0.005	<0.005				
90	ばれいしょ (塊茎) 平成4年度	水和剤(40%) 1000倍 200L/10a 散布	長野農総試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	7	0.007	0.006	0.030	0.030	
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				3	7	0.027	0.026	0.010	0.010	
			日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
72	さといも (球茎) 平成元年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	長野植防 松代	0	-	-	-	<0.005	<0.005	
				2	7	-	-	0.058	0.058	
				4	7	-	-	0.234	0.231	
			日植防宮崎	0	-	-	-	<0.005	<0.005	
				2	7	-	-	<0.005	<0.005	
				4	7	-	-	<0.005	<0.005	
88	さといも (球茎) 平成3年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a(茨城) 300L/10a(長野) 散布	日植防 研究所	0	-	-	-	<0.005	<0.005	
				1	7	-	-	<0.005	<0.005	
				1	14	-	-	<0.005	<0.005	
				1	21	-	-	<0.005	<0.005	
			長野植防 松代	0	-	-	-	<0.005	<0.005	
				1	7	-	-	<0.005	<0.005	
				1	14	-	-	<0.005	<0.005	
				1	21	-	-	<0.005	<0.005	

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
101	さといも (塊茎) 平成17年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a 散布	日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			宮崎総農試 畑作園芸支	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
14	かんしょ (可食部) 昭和48年度	乳剤(50%) 1000倍 散布	宮崎総農試	0	-	<0.005	<0.005	-	-
				4	7	<0.005	<0.005	-	-
				4	14	<0.005	<0.005	-	-
			鹿児島農試	0	-	<0.005	<0.005	-	-
				4	7	<0.005	<0.005	-	-
				4	14	<0.005	<0.005	-	-
102	かんしょ (塊根) 平成17年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a(大分) 200L/10a(宮崎) 散布	大分肥料 植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	3	<0.005	<0.005	0.005	0.005
				4	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			日植防宮崎	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
21	かんしょ (可食部) 昭和47年度	微粒剤(3%) 4kg/10a 散布	長崎総農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	29	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	13	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			宮崎総農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	26	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	26	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						P A P		P A P	
						最高値	平均値	最高値	平均値
15	てんさい (根部) 昭和47年度	乳剤 (50%) 800倍 50L/10a (北見) 134L/10a (根鋤) 散布	北海道 北見農試	0	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
				2	122	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
				3	115	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			北海道 根鋤農試	0	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
				2	117	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
				3	110	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	北海道 根鋤農試		0	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
			2	117	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
			3	110	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
40	さとうきび (茎) 昭和59年度	粉剤 (3%) 4kg/10a 散布	沖縄農試 (那覇)	0	-	<0.006	<0.006	-	-
				4	30	<0.006	<0.006	-	-
				4	59	<0.006	<0.006	-	-
			沖縄農試 (名護)	0	-	<0.006	<0.006	-	-
				4	30	<0.006	<0.006	-	-
				4	59	<0.006	<0.006	-	-
11	だいこん (根部) 昭和46年度	乳剤 (50%) 1000倍 150~200L/10a (静岡) 180L/10a (佐賀) 散布	静岡農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				4	7	-	-	<0.005	<0.005
			佐賀農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				3	34	-	-	<0.005	<0.005
				4	27	-	-	<0.005	<0.005
	だいこん (葉部) 昭和46年度		静岡農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	0.078	0.073
				4	7	-	-	0.129	0.121
			佐賀農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				3	34	-	-	<0.005	<0.005
				4	27	-	-	<0.005	<0.005

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						P A P		P A P	
						最高値	平均値	最高値	平均値
50 51	だいこん (根部) 昭和62年度	乳剤 (50%) 1000倍 150L/10a 散布	日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			長野植防研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			千葉農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	21	-	-	<0.005	<0.005
				2	28	-	-	<0.005	<0.005
				3	19	-	-	<0.005	<0.005
	石川砂丘地 農試		0	-	-	-	<0.005	<0.005	
			2	21	-	-	<0.005	<0.005	
			2	30	-	-	<0.005	<0.005	
			3	21	-	-	<0.005	<0.005	
	日植防 研究所		0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	長野植防研		0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
千葉農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005			
	2	21	-	-	<0.005	<0.005			
	2	28	-	-	<0.005	<0.005			
	3	19	-	-	<0.005	<0.005			
石川砂丘地 農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005			
	2	21	-	-	0.012	0.010			
	2	30	-	-	<0.005	<0.005			
	3	21	-	-	0.006	0.006			
だいこん (葉部) 昭和62年度	乳剤 (50%) 1000倍 150L/10a 散布	日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		長野植防研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		千葉農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005	
			2	21	-	-	<0.005	<0.005	
			2	28	-	-	<0.005	<0.005	
			3	19	-	-	<0.005	<0.005	
石川砂丘地 農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005			
	2	21	-	-	0.012	0.010			
	2	30	-	-	<0.005	<0.005			
	3	21	-	-	0.006	0.006			

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
52 53	かぶ (根部) 昭和62年度	乳剤 (50%) 1000倍 150L/10a 散布	日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			長野植防 南信	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			福島植防	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	21	-	-	0.011	0.011
				2	30	-	-	<0.005	<0.005
				3	21	-	-	0.018	0.018
			鳥取園試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	21	-	-	<0.005	<0.005
				2	30	-	-	<0.005	<0.005
				3	21	-	-	<0.005	<0.005
	かぶ (葉部) 昭和62年度		日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			長野植防 南信	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	21	<0.005	<0.005	0.009	0.008
			福島植防	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	21	-	-	0.063	0.063
				2	30	-	-	<0.005	<0.005
				3	21	-	-	0.127	0.118
鳥取園試	0	-	-	-	<0.005	<0.005			
	2	21	-	-	<0.005	<0.005			
	2	30	-	-	<0.005	<0.005			
	3	21	-	-	<0.005	<0.005			

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)						
						公的分析機関		社内分析機関				
						PAP		PAP				
						最高値	平均値	最高値	平均値			
						-						
6	はくさい (可食部) 昭和47年度	乳剤 (50%) 1000倍 150L/10a (茨城) 100L/10a (鳥取) 散布	茨城農試	0	-	-	-	<0.004	<0.004			
				3	3	-	-	0.025	0.023			
				3	7	-	-	0.018	0.017			
				3	14	-	-	0.008	0.008			
				6	3	-	-	0.249	0.248			
				6	7	-	-	0.187	0.187			
				6	14	-	-	0.010	0.009			
			鳥取農試 西伯分場	0	-	-	-	<0.004	<0.004			
				3	3	-	-	0.028	0.027			
				3	7	-	-	0.007	0.006			
				3	14	-	-	<0.004	<0.004			
				6	3	-	-	0.047	0.045			
				6	7	-	-	0.009	0.008			
				6	14	-	-	0.005	0.005			
44 45	はくさい (茎葉) 昭和62年度	乳剤 (50%) 1000倍 150L/10a 散布	日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
				3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			長野植防研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
				3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			宮城園試	0	-	-	-	<0.005	<0.005			
				2	21	-	-	<0.005	<0.005			
				3	21	-	-	<0.005	<0.005			
			岡山農試 北部	0	-	-	-	<0.005	<0.005			
				2	21	-	-	<0.005	<0.005			
				3	21	-	-	<0.005	<0.005			
			5	キャベツ (可食部) 昭和46年度 昭和47年度	乳剤 (50%) 1000倍 200L/10a 散布	埼玉園試	0	-	-	-	<0.001	<0.001
							2	7	-	-	<0.001	<0.001
2	14	-					-	<0.001	<0.001			
4	7	-					-	<0.001	<0.001			
4	14	-					-	<0.001	<0.001			
日植防 研究所	0	-				-	-	<0.001	<0.001			
	2	7				-	-	<0.001	<0.001			
	2	14				-	-	<0.001	<0.001			
	4	7				-	-	<0.001	<0.001			
	4	14				-	-	<0.001	<0.001			
	4	14				-	-	<0.001	<0.001			

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)				
						公的分析機関		社内分析機関		
						PAP		PAP		
						最高値	平均値	最高値	平均値	
38	キャベツ (葉球) 昭和58年度	乳剤(50%) 1000倍 100L/10a 地上散布	千葉農試 甲区	0	-	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001	
				1	3	0.012	0.011	<0.001	<0.001	
				1	7	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001	
			千葉農試 乙区	1	14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001	
				0	-	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001	
		1		3	0.025	0.024	0.016	0.016		
		乳剤(50%) 30倍 3L/10a 空中散布	千葉農試 甲区	1	7	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001	
				1	14	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001	
				0	-	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001	
			千葉農試 乙区	1	3	0.141	0.141	0.001	0.001	
				1	7	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001	
1	14			<0.005	<0.005	<0.001	<0.001			
54	キャベツ (葉球) 昭和62年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	日植防 研究所	0	-	-	-	<0.005	<0.005	
				2	14	-	-	<0.005	<0.005	
				3	14	-	-	<0.005	<0.005	
			長野農総試	0	-	-	-	<0.005	<0.005	
				2	14	-	-	<0.005	<0.005	
				3	14	-	-	<0.005	<0.005	
103	キャベツ (葉球) 平成15年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a(岩手) 200L/10a(群馬) 散布	岩手植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			群馬植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	14	0.007	0.006	0.008	0.008	
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	27	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
22 23	キャベツ (可食部) 昭和47年度	微粒剤 (3%) 4kg/10a 散布	日植防 研究所	0	-	<0.002	<0.002	-	-
				2	7	0.050	0.049	-	-
				2	14	<0.002	<0.002	-	-
				4	7	0.007	0.007	-	-
				4	14	0.008	0.007	-	-
			滋賀農試	0	-	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
				2	7	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
				2	14	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
				4	7	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
			兵庫農試	4	14	<0.002	<0.002	<0.005	<0.005
				0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
				4	7	-	-	0.012	0.012
			4	14	-	-	<0.005	<0.005	
			81	カリフラワー (花蕾・茎) 平成2年度	乳剤 (50%) 1000倍 200L/10a(長野) 150L/10a(滋賀) 散布	長野中信 農試	0	-	-
2	14	-					-	<0.005	<0.005
2	21	-					-	<0.005	<0.005
2	30	-					-	<0.005	<0.005
滋賀農試	0	-				-	-	<0.005	<0.005
	2	14				-	-	<0.005	<0.005
	2	21				-	-	<0.005	<0.005
	2	30				-	-	<0.005	<0.005
104	カリフラワー (花蕾) 平成18年度	乳剤 (50%) 1000倍 300L/10a 散布	長野農試 原村	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	35	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			徳島農総 センター 農研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	35	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
87	ブロッコリー (花蕾・茎) 平成2年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 散布	長野中信 農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
				2	21	-	-	<0.005	<0.005
				2	30	-	-	<0.005	<0.005
	ブロッコリー (花蕾・茎) 平成4年度		千葉農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	0.135	0.132
				2	21	-	-	0.037	0.036
				2	31	-	-	0.011	0.010
105	ブロッコリー (花蕾) 平成16年度 (茨城)	乳剤(50%) 1000倍 150~200L/10a (茨城) 200L/10a(大分) 散布	日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	平成16,17年 度(大分)		大分肥料 植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	0.030	0.030	0.031	0.031
				2	28	0.009	0.009	0.007	0.007
				2	42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
74	ごぼう (根部) 平成元年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	長野植防 松代	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	0.005	0.005
				3	14	-	-	<0.005	<0.005
				4	7	-	-	0.024	0.022
			宮崎農総試 ・ 日植防宮崎	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				3	14	-	-	<0.005	<0.005
				4	7	-	-	<0.005	<0.005
106	ごぼう (根部) 平成17年度	乳剤(50%) 1000倍 250L/10a(群馬) 300L/10a (鹿児島) 散布	群馬植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	3	<0.005	<0.005	0.028	0.026
				3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			鹿児島農試 大隈	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	3	0.007	0.006	0.033	0.032
				3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
75	しゅんぎく (施設) (茎葉) 平成元年度	乳剤(50%) 1000倍 120~150L/10a (長野) 150L/10a(大阪) 散布	長野植防 松代	0	-	-	-	0.008	0.008
				2	30	-	-	0.105	0.104
			大阪農技 センター	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	30	-	-	0.516	0.494

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						P A P		P A P	
						最高値	平均値	最高値	平均値
7	レタス (可食部) 昭和48年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a(茨城) 不明(東京) 散布	茨城下館 防除所	0	-	-	-	<0.002	<0.002
				2	7	-	-	0.081	0.079
				2	14	-	-	0.084	0.077
				2	21	-	-	0.022	0.020
				4	7	-	-	0.066	0.063
				4	14	-	-	0.050	0.047
				4	21	-	-	0.010	0.009
	レタス (可食部) 昭和49年度		東京農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	8	-	-	<0.005	<0.005
				2	13	-	-	<0.005	<0.005
				2	20	-	-	<0.005	<0.005
				4	8	-	-	<0.005	<0.005
				4	13	-	-	<0.005	<0.005
				4	20	-	-	<0.005	<0.005
46 47	レタス (茎葉) 昭和62年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	<0.005	<0.005	0.005	0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			長野 野菜花き試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			長野植防 南信	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
				2	21	-	-	<0.005	<0.005
				3	21	-	-	<0.005	<0.005
			新潟園試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	0.010	0.010
				2	21	-	-	<0.005	<0.005
				3	21	-	-	<0.005	<0.005
107	レタス (茎葉) 平成17年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a(長野) 200L/10a(宮崎) 散布	長野 野菜花き試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			日植防宮崎	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	0.110	0.106	0.016	0.016
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						P A P		P A P	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						-			
13	たまねぎ (可食部) 昭和47年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	和歌山農試	0	-	-	-	<0.01	<0.01
				2	14	-	-	<0.01	<0.01
				4	14	-	-	<0.01	<0.01
			兵庫農試	0	-	-	-	<0.01	<0.01
				2	4	-	-	<0.01	<0.01
				4	4	-	-	<0.01	<0.01
				7	4	-	-	<0.01	<0.01
108	たまねぎ (鱗茎) 平成15年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a(茨城) 300L/10a(兵庫) 散布	日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			兵庫植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
						-			
9	ねぎ (可食部) 昭和47年度	乳剤(50%) 1000倍 -L/10a、散布	東京農試 江戸川分場	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	179	-	-	<0.005	<0.005
				4	168	-	-	<0.005	<0.005
68	ねぎ (茎葉) 平成元年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	鳥取 果樹野菜試 西伯	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	0.021	0.020	0.010	0.010
				4	14	0.016	0.016	0.022	0.022
				4	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			徳島農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	0.083	0.080	0.044	0.043
				4	14	0.061	0.057	0.068	0.067
						0.021	0.020	0.036	0.036
109	ねぎ (茎葉) 平成17年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a(新潟) 300L/10a(三重) 散布	新潟植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	21	0.012	0.012	0.005	0.005
				1	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			三重植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
						<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						青森りんご試			
39	アスパラガス (可食部) 昭和58年度	乳剤(50%) 1000倍 散布	青森農試 (平賀)	0	-	<0.004	<0.004	-	-
				2	3	0.006	0.005	-	-
				2	7	<0.004	<0.004	-	-
				2	14	<0.004	<0.004	-	-
			青森農試 (黒石)	0	-	<0.004	<0.004	-	-
				2	3	0.009	0.009	-	-
				2	7	<0.004	<0.004	-	-
				2	14	0.007	0.006	-	-
						-			
110	アスパラガス (若茎) 平成17年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a 散布	青森植防	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	1	-	-	0.006	0.006
				2	3	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
			長野植防 南信	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	1	-	-	0.010	0.010
				2	3	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
						-			
43	わけぎ (茎葉) 昭和60年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 散布	広島農試 (津部田)	0	-	<0.002	<0.002	-	-
				2	1	1.02	1.01	-	-
				2	3	0.663	0.616	-	-
				2	7	0.118	0.113	-	-
				2	14	0.012	0.012	-	-
				3	1	1.24	1.21	-	-
				3	3	0.445	0.434	-	-
				3	7	0.152	0.141	-	-
				3	14	0.019	0.017	-	-
				4	1	0.870	0.858	-	-
				4	3	0.500	0.494	-	-
				4	7	0.088	0.083	-	-
	4		14	0.018	0.017	-	-		
	わけぎ (茎葉) 昭和61年度		広島農試 (岩子島)	0	-	<0.002	<0.002	-	-
				2	1	1.55	1.46	-	-
				2	3	0.142	0.132	-	-
				2	7	0.015	0.014	-	-
				2	14	0.013	0.012	-	-
				3	1	1.13	1.10	-	-
				3	3	0.114	0.104	-	-
				3	7	0.018	0.016	-	-
				3	14	0.008	0.008	-	-
				4	1	0.809	0.806	-	-
				4	3	0.175	0.174	-	-
4		7		0.020	0.018	-	-		
4	14	0.008	0.008	-	-				

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						P A P		P A P	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						-			
96	食用ゆり (鱗茎) 平成16年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a (花野菜) 150L/10a (中央) 散布	北海道 花野菜技術	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				3	1	-	-	<0.005	<0.005
				3	7	-	-	<0.005	<0.005
				3	14	-	-	<0.005	<0.005
			北海道 中央農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				3	1	-	-	<0.005	<0.005
				3	7	-	-	<0.005	<0.005
				3	14	-	-	<0.005	<0.005
						-			
12	にんじん (可食部) 昭和47年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 散布	鳥取農試 西伯分場	0	-	-	-	<0.004	<0.004
				2	3	-	-	0.024	0.022
				2	7	-	-	0.018	0.016
				2	14	-	-	0.006	0.006
				4	3	-	-	0.060	0.056
				4	7	-	-	0.028	0.025
				4	14	-	-	0.006	0.006
12	にんじん (根部) 昭和50年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	-	-
				4	7	0.024	0.022	-	-
				4	14	0.045	0.044	-	-
			福井農試	0	-	<0.005	<0.005	-	-
				4	7	0.025	0.024	-	-
				4	14	0.017	0.016	-	-
						-			
48 49	にんじん (根部) 昭和62年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	0.024	0.022	0.022	0.022
				2	21	0.024	0.024	0.068	0.068
				3	21	0.065	0.060	0.055	0.054
			長野植防研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	14	0.011	0.011	0.022	0.022
				2	21	0.022	0.022	0.018	0.018
				3	21	0.038	0.034	0.021	0.021
			鳥取園試 西伯	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	0.076	0.074
				2	21	-	-	0.086	0.086
				3	21	-	-	0.057	0.056

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
						公的分析機関		社内分析機関					
						P A P		P A P					
						最高値	平均値	最高値	平均値				
111	にんじん (根部) 平成18年度	乳剤(50%) 1000倍 100~150L/10a (高知) 30~120L/10a (宮崎) 散布	日植防高知	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
				1	45	0.079	0.078	0.084	0.083				
				1	60	0.066	0.066	0.050	0.049				
				1	90	0.009	0.009	0.020	0.020				
			日植防宮崎	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
				1	45	0.006	0.006	<0.005	<0.005				
				1	58	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
				1	88	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
83	パセリ (施設 ¹⁾ 、露地 ²⁾ (茎葉) 平成2年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a(千葉) 200L/10a(長野) 散布	千葉農試 東総研 ¹⁾	0	-	-	-	0.098	0.094				
				2	14	-	-	8.74	8.72				
				2	21	-	-	8.36	8.30				
				2	30	-	-	8.30	8.01				
			長野農試 原村 ²⁾	0	-	-	-	0.008	0.008				
				2	14	-	-	2.60	2.59				
				2	21	-	-	2.78	2.72				
				2	30	-	-	1.42	1.34				
				82	セルリー (施設) (茎葉) 平成2年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 散布	千葉農試 東総研	0	-	-	-	0.023	0.023
								2	14	-	-	2.51	2.46
2	21	-	-					0.285	0.282				
2	30	-	-					0.210	0.208				
長野農試 原村	0	-	-				-	<0.005	<0.005				
	2	14	-				-	1.11	1.09				
69	みつば (茎葉) 平成元年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	鯉渕学園	0	-	-	-	<0.005	<0.005				
				2	14	-	-	6.10	5.96				
				3	14	-	-	5.21	5.18				
			長野植防 南信	0	-	-	-	0.040	0.040				
2	14	-		-	2.20	2.18							
3	14	-		-	2.72	2.58							

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						P A P		P A P	
						最高値	平均値	最高値	平均値
80	トマト (施設) (果実) 昭和62年度	乳剤(50%) 2000倍 150L/10a 300L/10a(千葉) 散布	日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	1	0.039	0.039	0.052	0.050
				2	1	0.090	0.084	0.074	0.072
			千葉原種 農場	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	1	0.043	0.043	0.114	0.114
				2	1	0.113	0.110	0.152	0.144
			鯉渕学園	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				1	1	-	-	0.324	0.305
				2	1	-	-	0.531	0.529
			長野中信 農試	0	-	-	-	0.005	0.005
				1	1	-	-	0.091	0.086
				2	1	-	-	0.239	0.238
			広島農試	0	-	-	-	0.006	0.006
				1	1	-	-	0.366	0.364
				2	1	-	-	0.298	0.292
79	ピーマン (施設) (果実) 昭和62年度	乳剤(50%) 2000倍 150L/10a (和歌山以外) 200L/10a (和歌山) 散布	岩手園試	0	-	<0.005	<0.005	0.005	0.005
				1	1	0.074	0.072	0.138	0.132
				2	1	0.340	0.324	0.287	0.283
			日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	0.005	0.005
				1	1	0.373	0.370	0.260	0.243
				2	1	0.508	0.486	0.528	0.510
			長野中信 農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				1	1	-	-	0.142	0.132
				2	1	-	-	0.133	0.129
			大阪農技 センター	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				1	1	-	-	0.141	0.138
				2	1	-	-	0.596	0.593
			和歌山植防	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				1	1	-	-	0.095	0.091
				2	1	-	-	0.085	0.082
71	なす (施設) (果実) 平成元年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a(福島) 150L/10a(茨城) 散布	福島植防	0	-	-	-	0.007	0.007
				1	1	-	-	0.060	0.060
				2	1	-	-	0.168	0.158
			日植防 研究所	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				1	1	-	-	0.018	0.018
				2	1	-	-	0.019	0.018

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						P A P		P A P	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						-			
10	きゅうり (可食部) 昭和46年度	乳剤(50%) 1000倍 60L/10a (鹿児島) 100~120L/10a (新潟) 散布	鹿児島農試	0	-	-	-	0.001	0.001
				2	5	-	-	0.002	0.002
				2	10	-	-	0.001	0.001
				4	5	-	-	0.004	0.004
				4	10	-	-	0.001	0.001
			新潟園試	0	-	-	-	0.001	0.001
				2	5	-	-	0.003	0.002
				2	10	-	-	0.001	0.001
				2	15	-	-	0.005	0.005
				4	5	-	-	0.001	0.001
				4	10	-	-	0.003	0.003
				4	15	-	-	0.003	0.002
33	きゅうり (施設) (果実) 昭和52年度 昭和53年度	粉剤(FD-30) (30%) 500g/10a 散布	千葉農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	1	0.005	0.005	0.007	0.007
				4	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			長野農大	0	-	0.008	0.007	0.020	0.018
				4	1	0.251	0.233	0.411	0.406
				4	3	0.056	0.056	0.084	0.083
				4	7	0.028	0.028	0.105	0.104
				4	14	0.021	0.021	0.031	0.031
		乳剤(50%) 1000倍 100~300L/10a (千葉) 300L/10a(長野) 散布	千葉農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	1	0.010	0.010	0.006	0.006
				4	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			長野農大	0	-	0.008	0.007	0.020	0.018
				4	1	0.106	0.103	0.173	0.170
				4	3	0.064	0.064	0.088	0.086
				4	7	0.008	0.007	0.042	0.040
				4	14	0.006	0.006	<0.005	<0.005

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						-			
70	かぼちゃ (果実) 平成元年度	乳剤 (50%) 1000倍 150L/10a 散布	石川砂丘地 農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				3	1	-	-	0.054	0.054
				3	3	-	-	0.019	0.019
				3	7	-	-	0.008	0.007
			日植防宮崎	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				3	1	-	-	<0.005	<0.005
				3	3	-	-	<0.005	<0.005
						-			
112	かぼちゃ (果実) 平成17年度	乳剤 (50%) 1000倍 300L/10a (北海道) 220L/10a (宮崎) 散布	北海道 中央農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	3	0.005	0.005	0.008	0.008
				3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			日植防宮崎	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	3	0.006	0.006	0.011	0.010
				3	7	0.007	0.007	0.008	0.008
						-			
76	しろうり (果実) 平成元年度	乳剤 (50%) 1000倍 150L/10a 散布	日植防 研究所	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				3	3	-	-	0.008	0.008
				3	7	-	-	<0.005	<0.005
			長野植防 松代	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				3	3	-	-	<0.005	<0.005
						-			
73	すいか (施設) (果実) 平成元年度	乳剤 (50%) 1000倍 150L/10a 散布	石川砂丘地 農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				3	3	-	-	<0.005	<0.005
				3	7	-	-	<0.005	<0.005
			日植防宮崎	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				3	3	-	-	<0.005	<0.005
						-			
						-			
						-			

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
121	すいか (施設) (果実) 平成19年度 (茨城) 平成18年度 (石川)	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a(茨城) 200L/10a(石川) 散布	日植防 研究所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			石川植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
26	プリンス メロン (可食部) 昭和51年度	乳剤(50%) 1000倍 不明(長野) 300L/10a(茨城) 散布	長野 野菜花き試	0	-	<0.002	<0.002	<0.001	<0.001
				4	3	<0.002	<0.002	<0.001	<0.001
				4	7	<0.002	<0.002	<0.001	<0.001
			茨城銚田 防除所	0	-	<0.002	<0.002	<0.001	<0.001
				4	3	0.003	0.003	0.004	0.004
124	メロン (施設) (果実) 平成19年度	乳剤(50%) 1000倍 250L/10a(石川) 300L/10a(高知) 散布	石川植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			日植防高知	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
113	まくわうり (施設 ¹⁾ 、露地 ²⁾) (果実) 平成17年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a(石川) 220L/10a(宮崎) 散布	石川植防 ¹⁾	0	-	-	-	<0.005	<0.001
				4	3	-	-	0.019	0.018
				4	7	-	-	<0.005	<0.005
				4	14	-	-	<0.005	<0.005
			日植防 宮崎 ²⁾	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				4	3	-	-	<0.005	<0.005
				4	7	-	-	<0.005	<0.005
				4	14	-	-	<0.005	<0.005

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						P A P		P A P	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						-			
8	ほうれんそう (可食部) 昭和47年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	東京農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	0.016	0.015
				3	14	-	-	0.019	0.018
			愛知農試 園芸研究所	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	0.005	0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
				3	7	-	-	0.007	0.006
3	14	-	-	<0.005	<0.005				
55	ほうれんそう (茎葉) 昭和62年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	日植防 研究所	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	21	-	-	<0.005	<0.005
				3	21	-	-	<0.005	<0.005
			京都農総研	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	21	-	-	0.005	0.005
				3	21	-	-	0.005	0.005
114	ほうれんそう (施設) (茎葉) 平成19年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a(高知) 30~80L/10a (宮崎) 散布	日植防高知	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	21	0.024	0.024	0.016	0.016
				1	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			日植防宮崎	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	21	0.024	0.024	0.016	0.016
				1	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
63	さやえんどう (さや) 昭和63年度 平成元年度	乳剤(50%) 1000倍 190~193L/10a (岡山) 150L/10a (鹿児島) 散布	岡山農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	0.029	0.028
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
			鹿児島農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	0.060	0.060
2	14	-	-	0.024	0.024				
115	さやえんどう (施設) (さや) 平成18年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a 散布	日植防高知	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				1	14	-	-	0.248	0.246
				1	21	-	-	0.055	0.054
				1	28	-	-	<0.005	<0.005
			鹿児島植防	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				1	14	-	-	<0.005	<0.005
				1	21	-	-	<0.005	<0.005
1	28	-	-	<0.005	<0.005				

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
59	さやいんげん (さや) 昭和63年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	石川植防	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	0.015	0.014
			福井農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
116	さやいんげん (施設) (さや) 平成16年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a(福島) 150L/10a(高知) 散布	福島植防 郡山	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	1	0.088	0.087	0.118	0.114
				1	7	<0.005	<0.005	0.007	0.007
			日植防高知	1	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				1	1	0.202	0.200	0.091	0.090
				1	7	0.009	0.009	0.007	0.006
				1	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				-	-	-	-	-	-
56	だいず 〔えだまめ〕 (さやを含む) 昭和62年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	山形農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	0.088	0.087
			日植防 研究所	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	0.023	0.023
61	そらまめ (成熟生子実) 昭和63年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a(千葉) 200L/10a(愛媛) 散布	千葉暖地 園試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
			愛媛農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
117	未成熟 そらまめ (豆) 平成18年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a(三重) 286L/10a(愛媛) 散布	三重植防	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	3	-	-	0.010	0.010
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005
			愛媛農試	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	3	-	-	<0.005	<0.005
				2	7	-	-	<0.005	<0.005
				2	14	-	-	<0.005	<0.005

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)					
						公的分析機関		社内分析機関			
						P A P		P A P			
						最高値	平均値	最高値	平均値		
41	くわい (塊茎) 昭和58年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 散布	埼玉農試 (玄蕃新田)	0	-	<0.001	<0.001	-	-		
				2	88	0.051	0.048	-	-		
				3	88	0.072	0.072	-	-		
			埼玉農試 (高畑)	0	-	<0.001	<0.001	-	-		
				2	91	0.096	0.087	-	-		
				3	91	0.060	0.046	-	-		
	くわい (塊茎) 昭和59年度		埼玉農試 (玄蕃新田)	0	-	<0.001	<0.001	-	-		
				2	76	0.039	0.032	-	-		
				3	76	0.074	0.072	-	-		
			埼玉農試 (高畑)	5	62	0.243	0.230	-	-		
				0	-	<0.001	<0.001	-	-		
				2	82	0.065	0.060	-	-		
	日農 5		温州みかん (果肉) 昭和47年度	乳剤(20%) 50倍	高知農技	0	-	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
						1	143	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
2		107				<0.004	<0.004	<0.004	<0.004		
三重農技		0			-	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004		
		2			137	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004		
		4			104	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004		
温州みかん (果皮) 昭和47年度		高知農技	0		-	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008		
			1		143	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008		
			2		107	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008		
		三重農技	0		-	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008		
			2		137	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008		
			4		104	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008		

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						P A P		P A P	
						最高値	平均値	最高値	平均値
4	温州みかん (露地) (果肉) 昭和48年度	乳剤(50%) 1000倍 600L/10a 散布	和歌山 果園試	0	-	-	-	<0.002	<0.002
				3	7	-	-	0.012	0.012
				3	14	-	-	0.008	0.008
				3	21	-	-	0.005	0.004
				5	7	-	-	0.011	0.010
				5	14	-	-	0.010	0.009
			5	21	-	-	0.011	0.009	
			神奈川園試 根府川	0	-	-	-	<0.002	<0.002
				3	7	-	-	0.018	0.018
				3	16	-	-	0.006	0.00
				3	22	-	-	0.010	0.006
				5	7	-	-	0.017	0.015
	5			16	-	-	0.007	0.006	
	5		22	-	-	0.005	0.004		
	和歌山 果園試		0	-	-	-	<0.002	<0.002	
			3	7	-	-	2.06	1.98	
			3	14	-	-	2.12	2.06	
			3	21	-	-	1.96	1.91	
			5	7	-	-	4.40	4.32	
			5	14	-	-	3.10	3.04	
	5		21	-	-	4.20	4.12		
	神奈川園試 根府川		0	-	-	-	<0.002	<0.002	
			3	7	-	-	2.02	2.00	
			3	16	-	-	1.59	1.48	
3		22	-	-	1.61	1.49			
5		7	-	-	2.72	2.63			
5		16	-	-	2.87	2.78			
5	22	-	-	2.70	2.68				
温州みかん (露地) (果皮) 昭和48年度	乳剤(50%) 1000倍 600L/10a 散布	和歌山 果園試	0	-	-	-	<0.002	<0.002	
			3	7	-	-	2.02	2.00	
			3	16	-	-	1.59	1.48	
			3	22	-	-	1.61	1.49	
			5	7	-	-	2.72	2.63	
			5	16	-	-	2.87	2.78	
5	22	-	-	2.70	2.68				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
125	温州みかん (施設) (果肉) 平成19年度	乳剤(50%) 1000倍 700L/10a(高知) 550L/10a(大分) 散布	日植防高知	0	-	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				2	14	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				2	21	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				2	28	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				2	42	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
			大分肥料 植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				2	14	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				2	21	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				2	26	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				2	40	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
	温州みかん (施設) (果皮) 平成19年度	乳剤(50%) 1000倍 700L/10a(高知) 550L/10a(大分) 散布	日植防高知	0	-	<0.005	<0.005	<0.05	<0.05
				2	14	3.79	3.70	3.73	3.72
				2	21	3.60	3.58	3.70	3.66
				2	28	4.65	4.47	3.43	3.36
				2	42	4.10	3.95	3.28	3.25
			大分肥料 植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.05	<0.05
				2	14	1.19	1.17	1.66	1.56
				2	21	1.05	1.01	1.45	1.45
2				26	1.29	1.27	1.42	1.38	
2				40	0.371	0.358	0.71	0.69	

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						P A P		P A P	
						最高値	平均値	最高値	平均値
29	温州みかん (露地) (未成熟果実) 昭和54年度	a) 乳剤 (50%) 1000倍、500L/10a 地上散布 b) 微量散布用剤 (70%) 原液、0.4L/10a 空中散布	福岡園試	0	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
				1 ^a	62	<0.002	<0.002	0.007	0.006
				1 ^b	62	<0.002	<0.002	0.007	0.006
		a) 乳剤 (50%) 700倍、400L/10a 地上散布 b) 微量散布用剤 (70%) 原液、0.4L/10a 空中散布	熊本北部 防除所	0	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
				1 ^a	70	<0.002	<0.002	0.005	0.004
				1 ^b	70	<0.002	<0.002	0.005	0.004
	温州みかん (露地) (果肉) 昭和54年度	a) 乳剤 (50%) 1000倍、500L/10a 地上散布 b) 微量散布用剤 (70%) 原液、0.4L/10a 空中散布	福岡園試	0	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
				1 ^a	163	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
				1 ^b	163	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		a) 乳剤 (50%) 700倍、400L/10a 地上散布 b) 微量散布用剤 (70%) 原液、0.4L/10a 空中散布	熊本北部 防除所	0	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
				1 ^a	166	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
				1 ^b	166	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
温州みかん (露地) (果皮) 昭和54年度	a) 乳剤 (50%) 1000倍、500L/10a 地上散布 b) 微量散布用剤 (70%) 原液、0.4L/10a 空中散布	福岡園試	0	-	0.012	0.012	<0.002	<0.002	
			1 ^a	163	0.037	0.034	0.073	0.066	
			1 ^b	163	0.129	0.128	0.371	0.319	
	a) 乳剤 (50%) 700倍、400L/10a 地上散布 b) 微量散布用剤 (70%) 原液、0.4L/10a 空中散布	熊本北部 防除所	0	-	<0.005	<0.005	<0.002	<0.002	
			1 ^a	166	<0.005	<0.005	0.003	0.002	
			1 ^b	166	<0.005	<0.005	0.004	0.004	

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)					
						公的分析機関		社内分析機関			
						P A P		P A P			
						最高値	平均値	最高値	平均値		
						(財)残留農薬研究所	(株)環境技術研究所				
127	なつみかん (果実全体) 平成17年度	乳剤(50%) 1000倍 1400L/10a (山口) 600L/10a(大分) 散布	山口萩 柑きつ試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
				2	14	0.559	0.558	0.796	0.778		
				2	21	0.683	0.674	0.855	0.854		
				2	28	0.668	0.654	0.658	0.648		
			大分肥料 植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
				2	14	0.151	0.145	0.240	0.230		
				2	21	0.217	0.211	0.212	0.212		
128	すだち (果実全体) 平成17年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a 散布	徳島農総 セツ- 果研	0	-	-	-	<0.005	<0.005		
				2	14	-	-	1.52	1.50		
				2	21	-	-	2.04	2.02		
				2	28	-	-	1.82	1.72		
	かぼす (果実全体) 平成17年度	乳剤(50%) 1000倍 640L/10a 散布	大分肥料 植防	0	-	-	-	<0.005	<0.005		
				2	14	-	-	0.811	0.793		
				2	21	-	-	0.966	0.947		
						2	28	-	-	0.437	0.437
						(財)日本食品分析セツ-	日産化学工業(株)				
28	りんご (果実) 昭和49年度	微粒剤(3%) 9kg/10a 地表面散布	青森畑園試	0	-	<0.004	<0.004	<0.002	<0.002		
				4	84	<0.004	<0.004	<0.002	<0.002		
			秋田果試	0	-	<0.004	<0.004	<0.002	<0.002		
				4	57	<0.004	<0.004	<0.002	<0.002		
						(財)残留農薬研究所	(株)環境技術研究所				
118	りんご (果実) 平成18年度	水和剤(40%) 1000倍 600L/10a(青森) 500L/10a(福島) 散布	青森植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
				1	28	0.025	0.024	0.009	0.009		
				1	42	0.006	0.006	<0.005	<0.005		
			福島植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
				1	28	0.029	0.028	0.006	0.006		
				1	41	0.021	0.020	0.007	0.007		
				1	56	0.005	0.005	<0.005	<0.005		
						(財)残留農薬研究所	日産化学工業(株)				
131	りんご (果実) 平成22年度	水和剤(40%) 1000倍 450L/10a 散布	青森植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
				2	28	0.48	0.48	0.37	0.37		
				2	42	0.25	0.24	0.15	0.14		
				2	56	0.04	0.04	0.04	0.04		
			岩手植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
				2	28	0.43	0.42	0.47	0.47		
				2	42	0.28	0.27	0.22	0.22		
						2	56	0.05	0.04	0.05	0.04

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)							
						公的分析機関		社内分析機関					
						PAP		PAP					
						最高値	平均値	最高値	平均値				
						麻布大学		トモノ農業(株)					
日農 3	りんご 昭和59年度	乳剤(25%) 100倍 30L/10a(岩手) 20L/10a(長野) 樹幹散布	岩手園試	0	-	<0.03	<0.03	<0.004	<0.004				
				4	21	<0.03	<0.03	<0.004	<0.004				
				4	30	<0.03	<0.03	<0.004	<0.004				
			長野植防	0	-	<0.03	<0.03	<0.004	<0.004				
				4	21	<0.03	<0.03	0.020	0.019				
				4	30	<0.03	<0.03	0.005	0.005				
						-		住友化学工業(株)					
住友 32	りんご (果実) 昭和62年度	乳剤(50%) 200倍 500L/10a(富山) 300L/10a(長野)	富山農技 セツ-果試	0	-	-	-	<0.005	<0.005				
				2	199	-	-	<0.005	<0.005				
			長野植防 南信	0	-	-	-	<0.005	<0.005				
				2	200	-	-	<0.005	<0.005				
						-		日産化学工業(株)					
3	なし (可食部) 昭和48年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a (農林省果試) 10L/樹(茨城) 散布	農林省果試	0	-	-	-	<0.003	<0.003				
				3	7	-	-	0.298	0.295				
				3	14	-	-	0.116	0.114				
				3	21	-	-	0.059	0.056				
				5	7	-	-	0.444	0.437				
				5	14	-	-	0.164	0.162				
				5	21	-	-	0.089	0.085				
				0	-	-	-	<0.003	<0.003				
			茨城園試	3	7	-	-	0.482	0.481				
				3	14	-	-	0.161	0.160				
				3	21	-	-	0.038	0.035				
				4	7	-	-	0.582	0.580				
				4	14	-	-	0.107	0.107				
				4	21	-	-	0.089	0.086				
										(財)残留農薬研究所		(株)環境技術研究所	
				119	西洋なし (果実) 平成16年度	水和剤(40%) 800倍 500L/10a 散布	青森農総研 りんご試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
1	28	0.011	0.010					0.011	0.011				
1	42	0.006	0.006					<0.005	<0.005				
1	56	<0.005	<0.005					<0.005	<0.005				
長野植防 須坂	0	-	<0.005				<0.005	<0.005	<0.005				
	1	28	0.141				0.140	0.192	0.186				
	1	42	0.036				0.035	0.016	0.016				
	1	56	0.014				0.014	0.019	0.019				

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)					
						公的分析機関		社内分析機関			
						PAP		PAP			
						最高値	平均値	最高値	平均値		
						(財)残留農業研究所		(株)環境技術研究所			
126	日本なし (果実) 平成16年度	水和剤(40%) 800倍 500L/10a 散布	青森農総研 りんご試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
				2	28	0.045	0.045	0.020	0.020		
				2	42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
				2	56	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			秋田果試 天王分場	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
				2	28	0.275	0.272	0.304	0.290		
				2	42	0.072	0.070	0.068	0.068		
						2	55	0.014	0.014	0.025	0.025
日農 2	もも (果肉) 昭和47年度	乳剤(25%) 100倍 300L/10a(香川) 50L/樹(山形) 散布	香川農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
				5	33	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			山形園試	0	-	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004		
				2	69	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004		
				2	73	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004		
				4	85	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004		
	香川農試		4	89	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004			
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	山形園試		5	33	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			0	-	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008			
			2	69	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008			
			2	73	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008			
			4	85	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008			
			4	89	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008			
						(財)日本食品分析センター		(株)化学分析コンサルタント			
住友 31	うめ 昭和62年度	乳剤(50%) 200倍 100L/10a 400L/10a 樹幹散布	長野植防 南信	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
				2	76	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			福井園試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
				2	60	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
						-		トモノ農業(株)			
日農 4	うめ (果実) 平成2年度 (長野) 平成元年度 (トモ)	乳剤(25%) 100倍 300L/10a	長野植防 南信	0	-	-	-	0.010	0.010		
				1	95	-	-	0.007	0.007		
			トモノ農業 生物研	0	-	-	-	<0.002	<0.002		
				1	168	-	-	<0.002	<0.002		

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)					
						公的分析機関		社内分析機関			
						PAP		PAP			
						最高値	平均値	最高値	平均値		
						(財)残留農業研究所	日産化学工業(株)				
37	おうとう (果実) 昭和56年度	微粒剤(3%) 9kg/10a 散布	青森畑園試	0	-	<0.005	<0.005	<0.002	<0.002		
				3	21	<0.005	<0.005	<0.002	<0.002		
			山形園試 (ハレオン)	0	-	<0.005	<0.005	<0.002	<0.002		
				3	21	<0.005	<0.005	-	-		
山形園試 (佐藤錦)	0	-	<0.005	<0.005	-	-					
	3	21	<0.005	<0.005	<0.002	<0.002					
						麻布大学	トモノ農業(株)				
トモ 5	おうとう (果実) 昭和59年度	乳剤(25%) 100倍 250L/散布	青森畑園試	0	-	<0.03	<0.03	<0.004	<0.004		
				2	10	<0.03	<0.03	<0.004	<0.004		
						(株)エスコ	-				
協友 2	おうとう (施設) (果実) 平成20年度	乳剤(10%) 200倍 400L/10a 散布	岩手植防	0	-	<0.01	<0.01	-	-		
				2	69	<0.01	<0.01	-	-		
				2	76	<0.01	<0.01	-	-		
				2	83	<0.01	<0.01	-	-		
						東京教育大	トモノ農業(株)				
日農 1	ぶどう 昭和47年度	乳剤(25%) 100倍 250L/散布	山形園試	0	-	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004		
				1	120	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004		
			秋田果試	0	-	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004		
				1	135	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004		
						2	135	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
						(財)日本食品分析センター	-				
住友 30	ぶどう (果実) 昭和58年度	乳剤(10%) 100倍 250L/10a(山梨) 200L/10a(奈良) 散布	山梨果試	0	-	<0.005	<0.005	-	-		
				2	132	<0.005	<0.005	-	-		
			奈良農試	0	-	<0.005	<0.005	-	-		
				2	122	<0.005	<0.005	-	-		
						-	八洲化学工業(株)				
協友 1	ぶどう (果実) 昭和58年度	乳剤(10%) 100倍 250L/10a(山梨) 200L/10a(奈良) 散布	山梨果試	0	-	-	-	<0.002	<0.002		
				2	132	-	-	<0.002	<0.002		
			奈良農試	0	-	-	-	<0.002	<0.002		
				2	122	-	-	<0.002	<0.002		

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
34	かき (果実) 昭和55年度	水和剤(40%) 10倍 4L/10a 空中散布	福岡農試 (志波)	2	0	0.140	0.140	0.218	0.203
				2	1	0.116	0.116	0.163	0.159
				2	3	0.054	0.053	0.097	0.092
				2	8	0.037	0.036	0.073	0.073
				2	15	0.003	0.003	0.006	0.006
				2	22	<0.002	<0.002	<0.003	<0.003
				2	31	<0.002	<0.002	<0.003	<0.003
				2	41	<0.002	<0.002	-	-
			2	53	<0.002	<0.002	<0.003	<0.003	
			0	-	<0.002	<0.002	<0.003	<0.003	
			2	0	0.145	0.144	0.337	0.323	
			2	1	0.144	0.144	0.302	0.300	
			2	3	0.045	0.044	0.111	0.104	
			2	8	0.028	0.027	0.033	0.030	
		2	15	0.004	0.004	0.004	0.004		
		2	22	0.002	0.002	<0.003	<0.003		
		2	31	<0.002	<0.002	<0.003	<0.003		
		2	41	<0.002	<0.002	-	-		
		2	53	<0.002	<0.002	<0.003	<0.003		
		2	0	0.340	0.340	0.311	0.302		
		2	1	0.216	0.215	0.156	0.144		
		2	3	0.079	0.078	0.060	0.056		
		2	8	0.044	0.042	0.037	0.034		
		2	15	0.008	0.008	0.014	0.014		
		2	22	<0.002	<0.002	0.004	0.004		
		2	31	<0.002	<0.002	<0.003	<0.003		
		2	41	<0.002	<0.002	-	-		
		2	53	<0.002	<0.002	<0.003	<0.003		
		水和剤(40%) 800倍 320L/10a 散布	福岡農試 (久喜宮)	2	0	0.340	0.340	0.311	0.302
				2	1	0.216	0.215	0.156	0.144
				2	3	0.079	0.078	0.060	0.056
				2	8	0.044	0.042	0.037	0.034
				2	15	0.008	0.008	0.014	0.014
				2	22	<0.002	<0.002	0.004	0.004
				2	31	<0.002	<0.002	<0.003	<0.003
				2	41	<0.002	<0.002	-	-
			2	53	<0.002	<0.002	<0.003	<0.003	

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
86	かき (果実) 平成4年度	水和剤 (40%) 800倍 500L/10a (静岡) 300L/10a (新潟) 散布	静岡柑橘試 落葉果樹	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	14	0.238	0.228	0.179	0.170
				4	21	0.117	0.112	0.147	0.143
				4	30	0.013	0.013	0.019	0.016
				4	45	<0.005	<0.005	0.007	0.007
			新潟佐渡 農技センター	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				4	16	0.079	0.076	0.076	0.075
				4	23	0.054	0.052	0.118	0.113
				4	29	0.011	0.010	0.016	0.014
				4	44	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
18	くり (果実) 昭和48年度	乳剤 (50%) 1000倍 400L/10a (兵庫) 80L/10a (茨城) 散布	兵庫農試	0	-	<0.002	<0.002	-	-
				2	6	0.015	0.012	-	-
				2	12	0.002	0.002	-	-
				4	6	0.012	0.010	-	-
				4	12	0.010	0.009	-	-
			茨城園試	0	-	<0.002	<0.002	-	-
				3	44	<0.002	<0.002	-	-
				3	47	<0.002	<0.002	-	-
				5	16	<0.002	<0.002	-	-
				5	19	<0.002	<0.002	-	-
120	くり (果実) 平成17年度	乳剤 (50%) 1000倍 700L/10a (茨城) 500L/10a (長野) 散布	鯉淵 農業学校	0	-	<0.005	<0.005	-	-
				4	7	<0.005	<0.005	-	-
				4	14	<0.005	<0.005	-	-
				4	21	<0.005	<0.005	-	-
			長野植防 須坂	0	-	<0.005	<0.005	-	-
				4	7	<0.005	<0.005	-	-
				4	14	<0.005	<0.005	-	-
				4	21	<0.005	<0.005	-	-
25	くり (可食部) 昭和47年度	微量散布用剤 (70%) 原液0.35L/10a 空中散布	兵庫農試	0	-	<0.005	<0.005	-	-
				2	15	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001
				2	35	-	-	<0.001	<0.001
24	くり (可食部) 昭和47年度	微粒剤 (3%) 6kg/10a 散布	徳島池田 防除所	0	-	<0.005	<0.005	<0.002	<0.002
				2	13	<0.005	<0.005	<0.002	<0.002

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
66	くり (果肉) 平元年度	a) 乳剤〔ソル〕 (50%) 2倍、0.8L/10a 空中散布 b) 微量散布用剤 (70%) 原液0.35L/10a 空中散布	兵庫防除所 (処理aは A、Bの2区)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2 ^{aA}	41	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2 ^{aB}	41	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2 ^b	41	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
67	くり (種実) 昭和63年度	乳剤〔ソル〕 (50%) a) 空中散布 2倍、0.8L/10a b) 空中散布 原液0.35L/10a	兵庫防除所	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2 ^a	24	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2 ^b	24	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
89	くり (果肉) 平成2年度	a) 乳剤(50%) 1000倍、400L/10a 地上散布 b) 乳剤〔ソル〕 (50%) 4倍、1.6L/10a 空中散布(ラジヘリ)	岐阜防除所	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2 ^a	39	-	-	<0.005	<0.005
				2 ^b	39	-	-	<0.005	<0.005
		兵庫防除所	a) 微量散布用剤 (70%) 原液0.35L/10a 空中散布(有人ヘリ) b) 乳剤〔ソル〕 (50%) 4倍、1.6L/10a 空中散布(ラジヘリ) c) 乳剤〔ソル〕 (50%) 4倍、1.6L/10a 空中散布(有人ヘリ)	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2 ^a	41	-	-	<0.005	<0.005
				2 ^b	41	-	-	<0.005	<0.005
				2 ^c	41	-	-	<0.005	<0.005
				-	-	-	-	-	-

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

No.	作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍率又は 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
						公的分析機関		社内分析機関	
						PAP		PAP	
						最高値	平均値	最高値	平均値
						-			
17	茶 (葉) 昭和48年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a(奈良) 300L/10a(滋賀) 散布	奈良農試 茶業分場	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	20	-	-	0.012	0.009
				3	20	-	-	0.056	0.047
			滋賀茶業 指導所	0	-	-	-	<0.005	<0.005
				2	20	-	-	0.042	0.039
				3	20	-	-	0.046	0.044
	茶 (浸出液) 昭和48年度		奈良農試 茶業分場	0	-	-	-	<0.04	<0.04
				2	20	-	-	<0.04	<0.04
				3	20	-	-	<0.04	<0.04
			滋賀茶業 指導所	0	-	-	-	<0.04	<0.04
				2	20	-	-	<0.04	<0.04
				3	20	-	-	<0.04	<0.04
94	茶 (荒茶) 平成9年度	乳剤(50%) 1000倍 400L/10a 散布	神奈川農総 研津久井試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	205	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			三重植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				2	206	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

2. 土壌残留性

(1) 分析法の原理と操作概要

土壌を含水アセトニトリルで振盪抽出する。抽出液の一部をC18及びフロリジルの各ミニカラムで精製し、LC-MS/MSを用いてPAPを定量する。また、抽出液の一部を逆相ポリマー、グラファイトカーボン及び陰イオン交換の各ミニカラムで精製し、LC-MS/MSを用いてを定量する。

(2) 分析対象の化合物

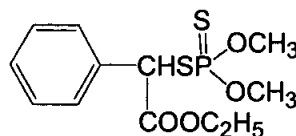
① PAP

化学名：*S*- α -エトキシカルボニルベンジル=*O*, *O*-ジメチル=ホスホロジチオアート

分子式： $C_{12}H_{17}O_4P S_2$

分子量：320.4

代謝経路図中での記号：A



②

化学名：

分子式：

分子量：

代謝経路図中での記号：

親化合物への換算係数：

③

化学名：

分子式：

分子量：

代謝経路図中での記号：

親化合物への換算係数：

(3) 残留試験結果

①容器内試験

推定半減期：PAP

水田	火山灰・軽埴土（牛久）	0.3日
水田	沖積・軽埴土（取手）	0.2日
畑地	火山灰・軽埴土（牛久）	0.3日
畑地	沖積・埴壤土（取手）	0.5日

分析機関：

No.	試料調製及び採取場所	被験物質の処理方法		経過日数	測定値 (mg/kg)						
		濃度	回数		PAP		最高値	平均値	最高値	平均値	合計 ^{*)}
					最高値	平均値					
1	(社)日本植物防疫協会研究所 （牛久） 火山灰・軽埴土 水田 平成18年度	純品 5 mg/kg 25 °C	0	-	<0.01	<0.01					
			1	0	4.09	4.05					
			1	1	0.65	0.54					
			1	2	0.16	0.14					
			1	4	0.05	0.04					
			1	7	0.02	0.02					
			1	14	0.02	0.02					
			1	30	0.01	0.01					
2	(社)日本植物防疫協会研究所 （取手） 沖積・軽埴土 水田 平成18年度	純品 5 mg/kg 25 °C	0	-	<0.01	<0.01					
			1	0	4.27	4.26					
			1	1	0.30	0.24					
			1	2	0.07	0.07					
			1	4	0.04	0.04					
			1	7	0.03	0.02					
			1	14	0.02	0.02					
			1	30	0.01	0.01					
3	(社)日本植物防疫協会研究所 （牛久） 火山灰・軽埴土 畑地 平成18年度	純品 5 mg/kg 25 °C	0	-	<0.01	<0.01					
			1	0	4.22	4.20					
			1	1	0.57	0.56					
			1	2	0.25	0.24					
			1	4	0.13	0.13					
			1	7	0.09	0.08					
			1	14	0.06	0.06					
			1	30	0.03	0.03					
	(社)日本植物防疫協会研究所 （取手） 沖積・埴壤土 畑地 平成18年度	純品 5 mg/kg 25 °C	0	-	<0.01	<0.01					
			1	0	4.13	4.10					
			1	1	1.12	1.12					
			1	2	0.63	0.63					
			1	4	0.32	0.32					
			1	7	0.20	0.20					
			1	14	0.15	0.14					
			1	30	0.10	0.10					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

②圃場試験

推定半減期：PAP

水田	火山灰・軽埴土（牛久）	0.9日
水田	沖積・軽埴土（取手）	0.5日
畑地	火山灰・軽埴土（牛久）	1.0日
畑地	沖積・埴壤土（取手）	3.1日

分析機関：

No.	試料調製及び採取場所	被験物質の処理方法		経過日数	測定値 (mg/kg)						
		濃度	回数		PAP		最高値	平均値	最高値	平均値	合計 ^{*)}
					最高値	平均値					
1	(社)日本植物防疫協会研究所 (牛久) 火山灰・軽埴土 水田 平成18年度	3%粉剤	0	-	<0.01	<0.01					
			3	0	0.36	0.36					
		4 kg/10a	3	1	0.17	0.16					
			3	2	0.07	0.07					
			3	4	0.04	0.04					
			3	7	0.03	0.03					
			3	14	0.01	0.01					
			3	30	0.01	0.01					
2	(社)日本植物防疫協会研究所 (取手) 沖積・軽埴土 水田 平成18年度	3%粉剤	0	-	<0.01	<0.01					
			3	0	0.27	0.26					
		4 kg/10a	3	1	0.07	0.07					
			3	2	0.06	0.06					
			3	4	0.02	0.02					
			3	7	0.01	0.01					
			3	14	0.01	0.01					
			3	30	<0.01	<0.01					
3	(社)日本植物防疫協会研究所 (牛久) 火山灰・軽埴土 畑地 平成18年度	3%粉剤	0	-	<0.01	<0.01					
			4	0	1.14	1.14					
		4 kg/10a	4	1	0.57	0.56					
			4	2	0.51	0.50					
			4	4	0.08	0.08					
			4	7	0.03	0.03					
			4	14	0.05	0.05					
			4	30	0.01	0.01					
	(社)日本植物防疫協会研究所 (取手) 沖積・埴壤土 畑地 平成18年度	3%粉剤	0	-	<0.01	<0.01					
			4	0	1.25	1.23					
		4 kg/10a	4	1	0.62	0.58					
			4	2	0.77	0.74					
			4	4	0.20	0.20					
			4	7	0.04	0.04					
			4	14	0.02	0.02					
			4	30	0.02	0.02					

参考資料

(1) 分析法の原理と操作概要

- ・水田土壌：減圧濾過し、水層と残渣に分ける。残渣に無水硫酸ナトリウムとジクロロメタン：アセトン(2：1 v/v)を加え、振とう抽出する。抽出液を残渣と濾別し水層を合わせ、塩化ナトリウムを加え、振とう分液する。
有機溶媒層を分取し、濃縮後、ガスクロマトグラフィ(FTD)を用いて内標準法にて定量する。
- ・畑土壌：土壌に無水硫酸ナトリウムとジクロロメタン：アセトン(2：1 v/v)を加え、振とう抽出する。以下の操作は水田土壌に準じる。

(2) 分析対象の化合物

PAP

(3) 残留試験結果

①容器内試験

推定半減期：PAP

水田	火山灰・埴壤土(栃木)	1日
水田	沖積・埴壤土(滋賀)	1日
畑地	火山灰・埴壤土(栃木)	1日
畑地	沖積・埴壤土(滋賀)	1日

分析機関：

試料調製及び採取場所	供試薬剤の濃度・量・回数	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)		
				最高値	回数	平均値
栃木県氏家町 (火山灰・埴壤土) 水田 昭47年	原体 () 4ppm	0	-	<0.01	1	<0.01
		1	0	3.21	2	3.18
		1	1	1.40	2	1.38
		1	3	0.91	2	0.88
		1	7	0.65	2	0.63
		1	14	0.39	2	0.36
		1	30	0.07	2	0.04
		1	60	0.07	2	0.06
		1	90	0.07	2	0.07
滋賀県守山市 (沖積・埴壤土) 水田 昭47年	原体 () 4ppm	0	-	<0.01	1	<0.01
		1	0	3.00	2	2.97
		1	1	1.63	2	1.56
		1	3	1.64	2	1.62
		1	7	0.97	2	0.90
		1	14	0.35	2	0.34
		1	30	0.08	2	0.08
		1	60	0.07	2	0.07
		1	90	0.07	2	0.06

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

分析機関：

試料調製及び 採取場所	供試薬剤の 濃度・量・回数	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)		
				最高値	回数	平均値
栃木県宇都宮市 (火山灰、埴壤土) 畑地 昭47年	原体 (%) 4ppm	0	-	<0.01	1	<0.01
		1	0	3.59	2	3.50
		1	1	1.24	2	1.23
		1	3	0.60	2	0.58
		1	7	0.31	2	0.29
		1	14	0.28	2	0.26
		1	30	0.15	2	0.15
		1	60	0.08	2	0.06
		1	90	0.09	2	0.08
滋賀県守山市 (沖積、埴壤土) 畑地 昭47年	原体 (%) 4ppm	0	-	<0.01	1	<0.01
		1	0	3.59	2	3.54
		1	1	1.39	2	1.32
		1	3	0.48	2	0.48
		1	7	0.35	2	0.34
		1	14	0.25	2	0.24
		1	30	0.11	2	0.10
		1	60	0.07	2	0.06
		1	90	0.06	2	0.06

②圃場試験

推定半減期：PAP

水田	沖積・埴壤土 (山形)	8日
水田	沖積・強粘土 (福島)	21日
畑地	砂土 (鳥取)	2日
畑地	火山灰土 (茨城)	4日

分析機関：

試料調製及び 採取場所	供試薬剤の 濃度・量・回数	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)		
				最高値	回数	平均値
山形県農業試験場 (沖積、埴壤土) 水田 昭47年	微粒剤 (3.0%) 4kg/10a	0	-	<0.01	2	<0.01
		3	0	0.16	2	0.14
		3	14	0.04	2	0.04
		3	30	0.01	2	0.01
		3	58	0.01	2	0.01
福島県農業試験場 (沖積、強粘土型) 水田 昭47年	微粒剤 (3.0%) 4kg/10a	0	-	<0.01	2	<0.01
		3	0	0.08	2	0.08
		3	14	0.05	2	0.05
		3	30	0.03	2	0.03
		3	70	0.01	2	0.01, <0.01
鳥取農試西伯分場 (砂土) 畑地 昭47年	乳剤 (50%) 100L/10a	0	-	<0.01	2	<0.01
		6	0	0.06	2	0.06
		6	3	0.02	2	0.02
		6	14	<0.01	2	<0.01
		6	30	<0.01	2	<0.01
茨城県農業試験場 (火山灰) 畑地 昭47年	乳剤 (50%) 150L/10a	0	-	<0.01	2	<0.01
		6	0	0.06	2	0.05
		6	3	0.04	2	0.03
		6	14	0.04	2	0.03
		6	30	0.03	2	0.03

3. 環境中予測濃度算定関係

試験 I

(1) 分析法の原理と操作概要

PAP 及び α -エトキシカルボニルベンジル-O-ジメチルホスホロジチオアート は試料を酸性条件下で酢酸エチルで抽出し、HPLC (UV 検出器) を用いて定量する。
 α -エトキシカルボニルベンジル-O-ジメチルホスホロジチオアート は濾過した試料を直接 LC-MS/MS を用いて定量する。

(2) 分析対象の化合物

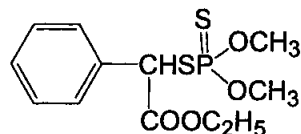
① PAP

化学名：S- α -エトキシカルボニルベンジル-O-ジメチルホスホロジチオアート

分子式：C₁₂H₁₇O₄PS₂

分子量：320.4

代謝経路図中での記号：A



②

化学名：

分子式：

分子量：

代謝経路図中での記号：

親化合物への換算係数：

③

化学名：

分子式：

分子量：

代謝経路図中での記号：

親化合物への換算係数：

(3) 残留試験結果

①田面水

推定半減期：PAP

水田 沖積・軽埴土（茨城） 0.6日
 水田 火山灰・埴壤土（栃木） 0.6日

分析機関：

No.	試料調製及び採取場所	被験物質の処理方法		経過日数	測定値 (mg/kg)							
					PAP						合計 ^{*)}	
					濃度	回数	最高値	平均値	最高値	平均値		最高値
1	(財)残留農業研究所 (沖積、軽埴土) 平成18年度	50%乳剤 800倍 150 L/10a	回数	0	-	<0.001	<0.001					
				1	0	1.22	1.22					
				1	1	0.237	0.236					
				1	3	<0.001	<0.001					
				1	7	<0.001	<0.001					
2	(財)残留農業研究所 (火山灰、埴壤土) 平成18年度	50%乳剤 800倍 150 L/10a	回数	0	-	<0.001	<0.001					
				1	0	1.49	1.49					
				1	1	0.242	0.242					
				1	3	<0.001	<0.001					
				1	7	<0.001	<0.001					
1	14	<0.001	<0.001									

②浸透水

分析機関：

No.	試料調製及び採取場所	被験物質の処理方法		経過日数	測定値 (mg/kg)							
					PAP						合計 ^{*)}	
					濃度	回数	最高値	平均値	最高値	平均値		最高値
1	(財)残留農業研究所 (沖積、軽埴土) 平成18年度	50%乳剤 800倍 150 L/10a	回数	0	-	<0.001	<0.001					
				1	7	<0.001	<0.001					
				1	14	<0.001	<0.001					
2	(財)残留農業研究所 (火山灰、埴壤土) 平成18年度	50%乳剤 800倍 150 L/10a	回数	0	-	<0.001	<0.001					
				1	7	<0.001	<0.001					
				1	14	<0.001	<0.001					

試験Ⅱ

(1) 分析対象の化合物

PAP

(2) 分析法の原理と操作概要

試料を多孔性ケイソウ土カラムに保持し、ヘキサンで溶出し、濃縮後アセトンに溶解し、ガスクロマトグラフ (NPD) を用いて定量する。

(3) 残留試験結果

田面水

分析機関：

試料調製及び 採取場所	供試薬剤の 濃度・量・回数	使用回数	経過日数	分析結果 (mg/L)		推定半減期 (日)
				最高値	平均値	
(財) 残留農業研究所 水海道研究所 (沖積、軽埴土) 平成5年度	微粒剤 (3.0%) 4.5kg/10a	0	-	<0.001	<0.001	0.72 日
		1	0	0.487	0.484	
		1	1	0.381	0.378	
		1	3	0.026	0.026	
		1	7	0.001	0.001	
(財) 残留農業研究所 水海道研究所 (火山灰、埴壤土) 平成5年度	微粒剤 (3.0%) 4.5kg/10a	0	-	<0.001	<0.001	0.75 日
		1	0	0.469	0.457	
		1	1	0.562	0.555	
		1	3	0.053	0.052	
		1	7	0.002	0.002	
		1	14	<0.001	<0.001	

VI. 有用動植物等に及ぼす影響

1. 水産動植物に対する影響

No.	試験の種類・被験物質	供試生物	1群当りの供試数	試験方法	試験水温(℃)	LC ₅₀ 又はEC ₅₀ 値(mg/L)				試験機関*1 (報告年)	備考・頁
						24h	48h	72h	96h		
1 GLP	魚類急性毒性試験 原体(%)	コイ	10	流水式	23.0-23.2	2.24 *3	2.10 *3	2.03 *3	1.85 *3	(2002年)	87
2 GLP	シジミ類 急性遊泳阻害試験 原体(%)	材シジミ	20	半止水式	19.8-20.3	0.000371 *3	0.000232 *3	-	-	(2002年)	88
3 GLP	ヌズビト 急性毒性試験 原体(%)	ミナミヌズビト	10	半止水式	22.7-23.2	>0.00181 *3	0.00149 *3	0.000940 *3	0.000694 *3	(2005年)	89
4 GLP	コヒト 急性毒性試験 原体(%)	ニホフコヒト	20	半止水式	22.8-23.1	>0.00100 *4	>0.00100 *4	0.000847 *4	0.000535 *4	(2005年)	91
5 GLP	ユスリカ幼虫 急性毒性試験 原体(%)	セシユスリカ幼虫	10	半止水式	22.7-22.9	0.0297 *3	0.00681 *3	-	-	(2005年)	93
6 GLP	藻類生長阻害試験 原体(%)	緑藻*2	初期濃度 10 ⁴ cells/mL	振とう 培養法	22.8-23.1	ErC ₅₀ (0-72h) : >7.04 *3 [NOECr(0-72h) : 0.100] *3				(2002年)	94
7 GLP	魚類急性毒性試験 粉剤(3%)	コイ	10	止水式	21.1-23.5	72.4	67.3	67.3	67.3	(2004年)	96
8 GLP	シジミ類 急性遊泳阻害試験 粉剤(3%)	材シジミ	20	止水式	19.5-20.5	0.055	0.038	-	-	(2002年)	97
9 GLP	藻類生長阻害試験 粉剤(3%)	緑藻*2	初期濃度 10 ⁴ cells/mL	振とう 培養法	24.0-24.5	ErC ₅₀ (24-48h) : 218.3 ErC ₅₀ (24-72h) : 233.4 EbC ₅₀ (0-72h) : 91.1 [NOECr(24-48h) : 50.0] [NOECr(24-72h) : 50.0] [NOECb(0-72h) : 6.2]				(2002年)	98
10	魚類急性毒性試験 水和剤(40%)	コイ	10	止水式	25±1	2.4	2.3	2.3	2.3	(2000年)	99
11	シジミ類 急性遊泳阻害試験 水和剤(40%)	シジミ	50	止水式	20±1	0.0031	0.0020	-	-	(2000年)	100
12 GLP	藻類生長阻害試験 水和剤(40%)	緑藻*2	初期濃度 10 ⁴ cells/mL	振とう 培養法	22.5-23.5	ErC ₅₀ (24-48h) : 28 ErC ₅₀ (24-72h) : 35 EbC ₅₀ (0-72h) : 9.3 [NOECr(24-48h) : 2.3] [NOECr(24-72h) : 8.2] [NOECb(0-72h) : 2.3]				(2006年)	101

No.	試験の種類・ 被験物質	供試生物	1群当り の供試数	試験 方 法	試験 水温 (℃)	LC ₅₀ 又は EC ₅₀ 値 (mg/L)				試験機関*1 (報告年)	備 考 ・ 頁
						24h	48h	72h	96h		
13	魚類急性毒性試験 乳剤 (50%)	コイ	10	止水式	25±1	3.5	2.2	1.6	1.6	(2000年)	102
14	ミジンコ類 急性遊泳阻害試験 乳剤 (50%)	ミジンコ	50	止水式	20±1	0.0027	0.0016	-	-	(2000年)	103
15 GLP	藻類生長阻害試験 乳剤 (50%)	緑藻*2	初期濃度 10 ⁴ cells/mL	振とう 培養法	24.0	ErC ₅₀ (24-48h) : 16.2 ErC ₅₀ (24-72h) : 25.5 EbC ₅₀ (0-72h) : 5.6 [NOECr (24-48h) : 5.0] [NOECr (24-72h) : 2.5] [NOECb (0-72h) : 1.2]				(2003年)	104

*2 緑藻 : *Pseudokirchneriella subcapitata* (旧学名 *Selenastrum capricornutum*)

*3 実測濃度に基づく値

*4 設定濃度 (有効成分濃度。秤量時に純度補正済) に基づく値

1. 水産動植物への影響に関する試験

(1) 魚類急性毒性試験 (原体)

コイを用いた急性毒性試験

(資料 No. 1)

試験機関:

(GLP 対応)

報告書作成年: 2002 年

被験物質: PAP 原体 (純度 %)

供試生物: コイ (*Cyprinus carpio*)

一群各 10 匹, 全長: 4.9 ± 0.14 cm, 体重: 1.3 ± 0.14 g

方法: 暴露期間 ; 96 時間

暴露方法 ; 流水式 (換水率: 約 14 回/日)

供試魚数 ; 10 匹/試験容器, 1 連制

希釈水 ; 脱塩素水道水

試験液量 ; 10L/試験容器

水質 ; 溶存酸素濃度 7.5-8.6mg/L (試験水温での飽和濃度の 60%以上), pH7.0-7.6

照明 ; 16 時間明/8 時間暗

給餌 ; 無

イレーション ; 無

試験液の調製方法 ; 必要量の被験物質を秤量し、ジメチルスルホキシド (DMSO) に溶解させて各濃度区の 10000 倍の濃度の試験原液を調製した。希釈装置及び定量ポンプにより希釈水と試験原液あるいは DMSO を一定の割合で混合し、マグネティックスターラーで攪拌して連続的に試験液を調製した。

試験水温: 23.0-23.2°C

結果:

試験濃度 (mg/L)	設定濃度	1.30, 1.82, 2.55, 3.57, 5.00	
	実測濃度	原体	有効成分*2
		1.12, 1.47, 2.11, 2.75, 4.09	
LC ₅₀ (mg/L) *1 [95%信頼限界]	24 時間	2.41 [2.07-2.84]	
	48 時間	2.26 [1.94-2.65]	
	72 時間	2.19 [1.89-2.55]	
	96 時間	1.99 [1.73-2.26]	
NOEC (mg/L)	算出できず		

*1 実測濃度に基づく値

症状 ; 全ての処理区で平衡喪失、体幹の湾曲 (側湾型)、体色暗化、腹部膨満、狂奔、出血、嗜眠状態、胸鰭の前方拡張及び活動度の低下が認められた。

被験物質濃度 ; 試験液中の被験物質濃度 (原体) は試験開始時では設定濃度に対して 82.2%~89.3%、試験終了時では 72.0%~83.3%であった。被験物質濃度は設定濃度の ±20%を超えたため、結果の算出には測定濃度の算術平均値を用いた。測定結果を下表に示した。

設定濃度 (mg/L)	被験物質濃度 (原体濃度) (mg/L)		
	0 時間	96 時間	平均 (算術平均)
	開始時	終了時	
1.30	1.16	1.08	1.12
1.82	1.56	1.39	1.47
2.55	2.14	2.08	2.11
3.57	2.94	2.57	2.75
5.00	4.41	3.77	4.09

(2) ジンコ類急性遊泳阻害試験 (原体)

(資料 No. 2)

試験機関:

(GLP 対応)

報告書作成年: 2002 年

被験物質: PAP 原体 (純度 %)

供試生物: 材ジンコ (*Daphnia magna*), 一群各 20 頭 (生後 24 時間以内の個体)

方 法: 暴露期間 ; 48 時間

暴露方法 ; 半止水式 (暴露開始 24 時間後に試験液の全量を交換)

供試生物数 ; 5 頭/試験容器, 4 連制

希釈水 ; 脱塩素水道水

試験液量 ; 100mL/試験容器

水質 ; 溶存酸素濃度 8.6-8.8mg/L (試験水温での飽和濃度の 60%以上), pH7.6-7.8

照明 ; 16 時間明/8 時間暗

給餌 ; 無

試験液の調製方法; 必要量の被験物質を秤量し、ジメチルスルホキシド (DMSO) に溶解して 100mg/L の元試験原液を調製し、さらに DMSO で希釈して各濃度区の 10000 倍の濃度の試験原液を調製した。濃度区毎に必要な量の試験原液と希釈水を混合、攪拌して試験液を調製し、各試験容器に分割した。

試験水温: 19.8-20.3℃

結 果:

試験濃度 (mg/L)	設定濃度	0.000120, 0.000204, 0.000346, 0.000588, 0.00100	
	実測濃度	原体	有効成分
		0.0000680, 0.000132, 0.000215, 0.000379, 0.000729	
EC ₅₀ (mg/L) *1 [95%信頼限界]	24 時間	0.000399 [0.000345-0.000468]	
	48 時間	0.000250 [0.000215-0.000379]	
NOEC (mg/L) *1		0.0000680	

*1 実測濃度に基づく値

症状; 0.000132mg/L 以上で嗜眠状態、遊泳阻害及び活動度の低下が認められた。

被験物質濃度; 試験液中の被験物質濃度 (原体) は試験開始時及び 24 時間後調製時では設定濃度に対して 80.4%~105%、換水前及び試験終了時では 28.9%~72.6%であった。被験物質濃度は設定濃度の±20%を超えたため、結果の算出には測定濃度の時間加重平均値を用いた。測定結果を下表に示した。

設定濃度 (mg/L)	被験物質濃度 (原体濃度) (mg/L)				
	0 時間	24 時間		48 時間	平均 (時間加重平均)
	調製時	換水前	調製時	終了時	
0.000120	0.0000965	0.0000401	0.000101	0.0000488	0.0000680
0.000204	0.000181	0.000125	0.000194	0.0000590	0.000132
0.000346	0.000283	0.000153	0.000311	0.000147	0.000215
0.000588	0.000514	0.000354	0.000476	0.000217	0.000379
0.00100	0.000899	0.000726	0.00105	0.000363	0.000729

(3) マヒ' 急性毒性試験 (原体)

(資料 No. 3)

試験機関:

(GLP 対応)

報告書作成年: 2005 年

被験物質: PAP 原体 (純度 %)

供試生物: ミマヒ' (*Neocaridina denticulata*)

一群各 10 匹 (成体と形態的に異なる段階のもので、未抱卵の個体)

全長: 2.0 ± 0.11 cm, 体重: 0.078 ± 0.011 g

方 法: 暴露期間 ; 96 時間

暴露方法 ; 半止水式 (24 時間毎に試験液の全量を交換)

供試生物数 ; 10 匹/試験容器, 1 連制

希釈水 ; 脱塩素水道水

試験液量 ; 2.5L/試験容器

水質 ; 溶存酸素濃度 6.8-8.6mg/L (試験水温での飽和濃度の 60%以上), pH7.4-7.9

照明 ; 16 時間明/8 時間暗

給餌 ; 無

イレーション ; 無

試験液の調製方法 ; 必要量の被験物質を秤量し、*N,N'*-ジメチルホルムアミド (DMF) に溶解させて 1000mg/L の元試験原液を調製し、さらに DMF で希釈して各濃度区の 10000 倍の濃度の試験原液を調製した。試験容器に入れた希釈水を攪拌しながら、必要量の試験原液を添加して試験液を調製した。

試験水温: 22.7-23.2°C

結 果:

試験濃度 (mg/L)	設定濃度*1	0.000101, 0.000343, 0.000617, 0.00111, 0.00200
	実測濃度	0.0000925, 0.000292, 0.000559, 0.000983, 0.00181
LC ₅₀ (mg/L) *2 [95%信頼限界]	24 時間: >0.00181 [-]	
	48 時間: 0.00149 [0.00112 -0.00289]	
	72 時間: 0.000940 [0.000713-0.00130]	
	96 時間: 0.000694 [0.000480-0.000995]	
NOEC (mg/L) *2	0.0000925	

*1 有効成分濃度

*2 実測濃度に基づく値

症状 ; 0.000559mg/L 以上で平衡喪失、嗜眠状態、体色明化及び活動度の低下が認められた。また、助剤対照区、0.0000925 及び 0.000983mg/L で脱皮個体が若干数認められた。

被験物質濃度 ; 試験液中の被験物質濃度は試験開始時及び換水後では設定濃度に対して 81.7%~102%、換水前及び試験終了時では 76.1%~94.6%であった。被験物質濃度は設定濃度の ±20%を超えたため、結果の算出には測定濃度の幾何平均値を用いた。測定結果を表に示した。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

設定濃度 (mg/L)	被験物質濃度 (mg/L) (対設定濃度%)								
	0 時間	24 時間		48 時間		72 時間		96 時 間	平均*
	調製時	換水前	換水後	換水前	換水後	換水前	換水後	終了時	
0.000101	0.0000978 (96.8)	0.0000946 (93.7)	0.0000892 (88.3)	0.0000846 (83.7)	0.0000994 (98.4)	0.0000921 (91.2)	0.0000954 (94.5)	0.0000878 (86.9)	0.0000925 (91.6)
0.000343	0.000300 (87.4)	0.000292 (85.1)	0.000292 (85.2)	0.000283 (82.4)	0.000297 (86.5)	0.000279 (81.3)	0.000305 (89.0)	0.000291 (85.0)	0.000292 (85.2)
0.000617	0.000581 (94.2)	0.000526 (85.3)	0.000560 (90.7)	0.000504 (81.7)	0.000587 (95.1)	0.000536 (86.8)	0.000629 (102)	0.000558 (90.5)	0.000559 (90.6)
0.00111	0.000911 (82.1)	0.000943 (85.0)	0.000947 (85.3)	0.000934 (84.1)	0.00100 (90.2)	0.000970 (87.4)	0.00112 (101)	0.00105 (94.4)	0.000983 (88.5)
0.00200	0.00199 (99.6)	0.00189 (94.6)	0.00163 (81.7)	0.00152 (76.1)	0.00189 (94.5)	0.00186 (93.0)	0.00202 (101)	0.00173 (86.5)	0.00181 (90.5)

* 幾何平均値

(4) ヨコエビ^{*} 急性毒性試験 (原体)

(資料 No. 4)

試験機関:

(GLP 対応)

報告書作成年: 2005 年

被験物質: PAP 原体 (純度 %)

供試生物: ニッポンヨコエビ^{*} (*Gammarus nipponensis*)

一群各 20 匹, 外寸: 0.33±0.040cm, 体重: 0.0019g

方 法: 暴露期間 ; 96 時間

暴露方法 ; 半止水式 (24 時間毎に試験液の全量を交換)

供試生物数 ; 10 匹/試験容器, 2 連制

希釈水 ; 脱塩素水道水

試験液量 ; 1.0L/試験容器

水質 ; 溶存酸素濃度 8.0-8.7mg/L (試験水温での飽和濃度の 60%以上), pH7.7-8.0

照明 ; 16 時間明/8 時間暗

給餌 ; 無

イレーション ; 無

試験液の調製方法 ; 必要量の被験物質を秤量し、*N,N*-ジメチルホルムアミド (DMF) に溶解させて 1000mg/L の元試験原液を調製し、さらに DMF で希釈して各濃度区
の 10000 倍の濃度の試験原液を調製した。試験容器に入れた希釈水
を攪拌しながら、必要量の試験原液を添加して試験液を調製した。

試験水温: 22.8-23.1℃

結 果:

試験濃度 (mg/L)	設定濃度*1	0.000153, 0.000244, 0.000391, 0.000625, 0.00100
	実測濃度	0.000135, 0.000223, 0.000358, 0.000547, 0.000902
LC ₅₀ (mg/L) *2 [95%信頼限界]	24 時間	>0.00100 [-]
	48 時間	>0.00100 [-]
	72 時間	0.000847 [0.000733-0.00105]
	96 時間	0.000535 [0.000470-0.000608]
NOEC (mg/L) *2		0.000244

*1 有効成分濃度

*2 設定濃度に基づく値

症状; 0.000391mg/L 以上で嗜眠状態及び活動度の低下が認められた。また、0.000244mg/L 以外の処理区で脱皮個体が若干数認められた。

被験物質濃度 ; 試験液中の被験物質濃度は試験開始時及び換水後では設定濃度に対して 84.2%~99.5%、換水前及び試験終了時では 81.3%~93.9%であった。被験物質濃度は設定濃度の±20%以内に維持されていたため、結果の算出には設定濃度を用いた。測定結果を表に示した。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

設定濃度 (mg/L)	被験物質濃度 (mg/L) (対設定濃度%)								
	0 時間	24 時間		48 時間		72 時間		96 時間	平均*
	調製時	換水前	換水後	換水前	換水後	換水前	換水後	終了時	
0.000153	0.000130 (84.7)	0.000129 (84.1)	0.000135 (88.4)	0.000134 (87.8)	0.000136 (89.1)	0.000143 (93.7)	0.000134 (87.7)	0.000140 (91.2)	0.000135 (88.3)
0.000244	0.000242 (99.1)	0.000214 (87.6)	0.000243 (99.5)	0.000198 (81.3)	0.000230 (94.4)	0.000221 (90.6)	0.000234 (96.0)	0.000210 (85.9)	0.000223 (91.6)
0.000391	0.000364 (93.2)	0.000319 (81.6)	0.000386 (98.8)	0.000349 (89.2)	0.000376 (96.1)	0.000366 (93.6)	0.000387 (99.1)	0.000323 (82.6)	0.000358 (91.6)
0.000625	0.000526 (84.2)	0.000544 (87.0)	0.000586 (93.7)	0.000537 (85.9)	0.000566 (90.5)	0.000520 (83.2)	0.000559 (89.4)	0.000541 (86.5)	0.000547 (87.5)
0.00100	0.000888 (88.8)	0.000939 (93.9)	0.000857 (85.7)	0.000855 (85.5)	0.000924 (92.4)	0.000906 (90.6)	0.000969 (96.9)	0.000885 (88.5)	0.000902 (90.2)

* 幾何平均値

(5) ヌリカ幼虫急性毒性試験 (原体)

(資料 No. 5)

試験機関:

(GLP 対応)

報告書作成年: 2005 年

被験物質: PAP 原体 (純度 %)

供試生物: セジ ヌリカ (*Chironomus yoshimatsui*), 一群各 10 匹 (2-3 虫齢幼生)

方 法: 暴露期間 ; 48 時間

暴露方法 ; 半止水式 (24 時間後に試験液の全量を交換)

供試生物数 ; 10 匹/試験容器, 1 連制

希釈水 ; 脱塩素水道水

試験液量 ; 500mL/試験容器

水質 ; 溶存酸素濃度 8.4-8.7mg/L (試験水温での飽和濃度の 60%以上), pH7.9-8.1

照明 ; 16 時間明/8 時間暗

給餌 ; 無

イレーション ; 無

試験液の調製方法 ; 必要量の被験物質を秤量し、N,N'-ジメチルホルムアミド (DMF) に溶解させて 10000mg/L の元試験原液を調製した。この元試験原液を適宜希釈し、各濃度区の 10000 倍の濃度の試験原液を調製した。試験容器に入れた希釈水を攪拌しながら、必要量の試験原液を添加して試験液を調製した。

試験水温: 22.7-22.9°C

結 果:

試験濃度 (mg/L)	設定濃度*1	0.0000953, 0.00171, 0.0309, 0.556, 10.00
	実測濃度	0.0000842, 0.00161, 0.0297, 0.503, 4.69
LC ₅₀ (mg/L) *2 [95%信頼限界]		24 時間: 0.0297 [算出できず] 48 時間: 0.00681 [0.000402-0.0542]
NOEC (mg/L) *2		<0.0000842

*1 有効成分濃度

*2 実測濃度に基づく値

症状 ; 0.503mg/L 以上で体の萎縮、退色、嗜眠状態及び活動度の低下が認められた。

被験物質濃度 ; 試験液中の被験物質濃度は試験開始時では設定濃度に対して 51.8%~103%、換水前では 42.5%~89.9%であった。被験物質濃度は設定濃度の±20%を超えたため、結果の算出には測定濃度の幾何平均値を用いた。測定結果を下表に示した。

設定濃度 (mg/L)	被験物質濃度 (mg/L) (対設定濃度%)		
	0 時間	24 時間	平均*
	開始時	換水前	
0.0000953	0.0000876 (91.9)	0.0000810 (85.0)	0.0000842 (88.4)
0.00171	0.00173 (101)	0.00150 (87.8)	0.00161 (94.2)
0.0309	0.0318 (103)	0.0278 (89.9)	0.0297 (96.1)
0.556	0.507 (91.2)	0.499 (89.7)	0.503 (90.5)
10.00	5.18 (51.8)	4.25 (42.5)	4.69 (46.9)

* 幾何平均値

(6) 藻類生長阻害試験 (原体)

(資料 No. 6)

試験機関:

(GLP 対応)

報告書作成年: 2002 年

被験物質: PAP 原体 (純度 %)

供試生物: 緑藻 *Pseudokirchneriella subcapitata*, ATCC22662 株 (旧学名 *Selenastrum capricornutum*)

初期細胞濃度 10⁴ cells/mL

方法: 暴露期間 ; 72 時間

暴露方法 ; 旋回振とう培養 (約 100 回/分)

試験培地 ; OECD 推奨培地

試験液量 ; 100ml/試験容器, 3 連制

pH ; 7.5-10.4

照明 ; 蛍光灯による連続照明 (4200 lux)

試験液の調製方法 ; 必要量の被験物質を秤量し、ジメチルスルホキシド (DMSO) に溶解させて、各濃度区の 10000 倍の濃度の試験原液を調製した。この試験原液を必要量分取し、各試験容器に入れた培地と混合後、約 24 時間旋回振とうして調製した。

培養水温: 22.8-23.1°C

結果:

試験濃度 (mg/L)	設定濃度	0.512, 1.28, 3.20, 8.00, 20.0	
	実測濃度 (開始時)	原体*1	
		0.566, 1.29, 3.10, 6.94, 7.41	
ErC ₅₀ (mg/L) [95%信頼限界]	0-72 時間	> 7.41	
	24-48 時間	6.34 [4.28-9.38]	
	24-72 時間	7.41 *2 [-]	
EbC ₅₀ (mg/L) [95%信頼限界]	0-72 時間	2.35 [2.04-2.70]	
NOECr (mg/L)	0-72 時間	0.566	
	24-48 時間	1.29	
	24-72 時間	1.29	
NOECb (mg/L)	0-72 時間	0.566	

*1 実測濃度 (開始時) に基づく値

*2 7.41mg/L での阻害率が 49.7%であったため、ErC₅₀ を 7.41mg/L とした。

細胞形態 ; 3.10mg/L 以上でやや膨張もしくは膨張した細胞が観察された。

被験物質濃度 ; 試験液中の被験物質濃度 (原体) は試験開始時では設定濃度に対して 37.1% ~ 111%、試験終了時では検出限界以下 (<0.0538mg/L) ~ 75.7%であった。被験物質濃度は設定濃度の ±20% を超えたため、結果の算出には暴露開始時の測定濃度を用いた。測定結果を下表に示した。

設定濃度 (mg/L)	被験物質濃度 (原体濃度) (mg/L)			平均 (時間加重平均)
	0 時間	72 時間		
	開始時	終了時		
0.512	0.566	n. d.		0.108
1.28	1.29	0.173		0.557
3.20	3.10	1.66		2.31
8.00	6.94	6.05		6.49
20.0	7.41	7.74		7.58

n. d. : <0.0538mg/L

申請者注)

実測濃度 (時間加重平均) に基づく結果 (試験責任者が算出した)

試験濃度 (mg/L)	設定濃度	0.512, 1.28, 3.20, 8.00, 20.0	
	実測濃度 (平均)	原体*1	
		0.108, 0.557, 2.31, 6.49, 7.58	
ErC ₅₀ (mg/L) [95%信頼限界]	0-72 時間	> 7.58	
	24-48 時間	6.62 [-]	
	24-72 時間	7.58 *2 [-]	
EbC ₅₀ (mg/L) [95%信頼限界]	0-72 時間	1.54 [1.06-2.24]	
NOECr (mg/L)	0-72 時間	0.108	
	24-48 時間	0.557	
	24-72 時間	0.557	
NOECb (mg/L)	0-72 時間	0.108	

*1 実測濃度 (時間加重平均) に基づく値

*2 7.58mg/L での阻害率が 49.7%であったため、ErC₅₀ を 7.58mg/L とした。

(7) 魚類急性毒性試験 (製剤)

㊦を用いた急性毒性試験

(資料 No. 7)

(GLP 対応)

試験機関:

報告書作成年: 2004 年

被験物質: 粉剤 (PAP 3%)

供試生物: ㊦ (*Cyprinus carpio*)

一群各 10 匹, 平均全長: 4.7cm, 平均体重: 1.1g

方 法: 暴露期間 ; 96 時間

暴露方法 ; 止水式

供試魚数 ; 5 匹/試験容器, 2 連制

希釈水 ; 脱塩素水道水

試験液量 ; 10L/試験容器

水質 ; 溶存酸素濃度 72.0-109.8% (飽和濃度に対する割合), pH7.4-8.1

照明 ; 16 時間明/8 時間暗

給餌 ; 無

エアレーション ; 24 時間後から緩やかなエアレーション

試験液の調製方法; 被験物質を所定量秤量し、希釈水に添加して調製した。

試験水温: 21.1-23.5℃

結 果:

試験濃度 (mg/L) *	0.88, 1.9, 4.3, 9.4, 21, 45, 100, 220
LC ₅₀ (mg/L) * [95%信頼限界]	24 時間: 72.4 [49.9-105.9]
	48 時間: 67.3 [45.6- 99.7]
	72 時間: 67.3 [45.6- 99.7]
	96 時間: 67.3 [45.6- 99.7]
NOEC (mg/L) *	0.88

* 設定濃度 (製剤濃度) に基づく値

症状; 1.9mg/L 以上で平衡失調、遊泳異常、鼻上げ、出血及び背曲がり認められた。

(8) ミンコ類急性遊泳阻害試験 (製剤)

(資料 No. 8)
(GLP 対応)

試験機関：
報告書作成年：2002 年

被験物質：粉剤 (PAP 3%)

供試生物：オシロイソデ (*Daphnia magna*), 一群各 20 頭 (生後 24 時間以内の個体)

方 法：暴露期間 ; 48 時間

暴露方法 ; 止水式

試験生物数 ; 5 頭/試験容器, 4 連制

希釈水 ; Elendt M4

試験液量 ; 100mL/試験容器

水質 ; 溶存酸素濃度 79.3-122.6% (飽和濃度に対する割合), pH6.85-8.46

照明 ; 16 時間明/8 時間暗

試験液の調製方法 ; 被験物質を所定量秤量し、希釈水に溶解させ試験原液を調製した。
この試験原液を順次希釈し試験液を調製した。

試験水温 : 19.5-20.5℃

結 果 :

試験濃度 (mg/L) *	0.0039, 0.0058, 0.0088, 0.013, 0.020, 0.030, 0.044, 0.067, 0.1
EC ₅₀ (mg/L) * [95%信頼限界]	24 時間 : 0.055 [0.049-0.062] 48 時間 : 0.038 [算出できず]
NOEC (mg/L) *	0.030

* 設定濃度 (製剤濃度) に基づく

症状 ; 0.044mg/L 以上で遊泳阻害が認められ、0.067mg/L 以上では 100%の遊泳阻害率であった。尚、対照区で遊泳阻害は認められなかった。

(9) 藻類生長阻害試験 (製剤)

(資料 No. 9)

試験機関:

(GLP 対応)

報告書作成年: 2002 年

被験物質: 粉剤 (PAP 3%)

供試生物: 緑藻 *Pseudokirchneriella subcapitata*, ATCC22662 株 (旧学名 *Selenastrum capricornutum*)

初期細胞濃度 10⁴ cells/mL

方 法: 暴露期間 ; 72 時間

暴露方法 ; 振とう培養 (約 100 回/分)

試験培地 ; AGP 培地 (濾過滅菌)

試験液量 ; 100mL/試験容器, 3 連制

pH ; 7.46-7.78

照明 ; 白色蛍光灯 (400-700nm) による連続照明 (3,959-4,166 lux)

試験液の調製方法; 50mg/L 以上の濃度区では被験物質を秤量し、その全量を試験培地に添加して調製した。25mg/L 以下の濃度区では被験物質を所定量秤量後に、試験培地に溶解させて試験原液を調製し、順次希釈し試験液を調製した。

培養水温: 24.0-24.5°C

結 果:

試験濃度 (mg/L) *	6.2, 12.5, 25, 50, 100, 200, 400
ErC ₅₀ (mg/L) *	24-48 時間: 218.3 [算出できず]
[95%信頼限界]	24-72 時間: 233.4 [算出できず]
EbC ₅₀ (mg/L) *	0-72 時間: 91.1 [算出できず]
[95%信頼限界]	
NOECr (mg/L) *	24-48 時間: 50.0
	24-72 時間: 50.0
NOECb (mg/L) *	0-72 時間: 6.2

* 設定濃度 (製剤濃度) に基づく値

細胞形態; 異常は認められなかった。

(10) 魚類急性毒性試験 (製剤)

コイを用いた急性毒性試験

(資料 No. 10)

試験機関:

報告書作成年: 2000 年

被験物質: 水和剤 (PAP 40%)

供試生物: コイ (*Cyprinus carpio*)

一群各 10 匹, 平均全長: 6.2cm, 平均体重: 3.4g

方 法: 暴露期間 ; 96 時間

暴露方法 ; 止水式

供試魚数 ; 5 匹/試験容器, 2 連制

希釈水 ; 井戸水

試験液量 ; 10L/試験容器

照明 ; 16 時間明/8 時間暗

試験液の調製方法; 被験物質を所定量秤量し、希釈水に添加して調製した。

試験水温: 25±1℃

結 果:

試験濃度 (mg/L) *	0.2, 0.39, 0.78, 1.56, 3.13, 6.25, 12.5, 25, 50, 100
LC ₅₀ (mg/L) *	24 時間: 2.4 48 時間: 2.3 72 時間: 2.3 96 時間: 2.3

* 設定濃度 (製剤濃度) に基づく値

(11) ジンコ類急性遊泳阻害試験 (製剤)

(資料 No. 11)

試験機関：

報告書作成年：2000年

被験物質：水和剤 (PAP 40%)

供試生物：ジンコ (*Daphnia pulex*), 一群各 50 頭 (2-3 週齢の雌成体)

方 法：暴露期間；48 時間

暴露方法；止水式

試験生物数；25 頭/試験容器, 2 連制

希釈水；OECD 推奨人工調製水

試験液量；200mL/試験容器

照明；16 時間明/8 時間暗

試験液の調製方法；被験物質を所定量秤量し、希釈水に添加して調製した。

試験水温：20±1℃

結 果：

試験濃度 (mg/L) *	0.12, 0.24, 0.49, 0.98, 1.95, 3.91, 7.81, 15.6, 31.3, 62.5, 125, 250, 500
EC ₅₀ (mg/L) *	3 時間：0.033 24 時間：0.0031 48 時間：0.0020

* 設定濃度 (製剤濃度) に基づく値

(12) 藻類生長阻害試験 (製剤)

(資料 No. 12)
(GLP 対応)

試験機関：
報告書作成年：2006 年

被験物質：水和剤 (PAP 40%)

供試生物：緑藻 *Pseudokirchneriella subcapitata*, ATCC22662 株

初期細胞濃度 10⁴ cells/mL

方 法：暴露期間 ; 72 時間

暴露方法 ; 振とう培養 (約 100 回/分)

試験培地 ; AGP 培地 (濾過滅菌)

試験液量 ; 100mL/試験容器, 3 連制

pH ; 7.1-7.3

照明 ; 白色蛍光灯 (400-700nm) による連続照明 (4,077-4,195 lux)

試験液の調製方法 ; 100mg/L 濃度区では被験物質を秤量し、その全量を試験培地に添加して調製した。28mg/L 以下の濃度区では被験物質を所定量秤量後に、試験培地に溶解させて試験原液を調製し、順次希釈し試験液を調製した。

培養水温 : 22.5-23.5℃

結 果 :

試験濃度 (mg/L) *	0.67, 2.3, 8.2, 28, 100
ErC ₅₀ (mg/L) * [95%信頼限界]	24-48 時間 : 28 [算出できず] 24-72 時間 : 35 [算出できず]
EbC ₅₀ (mg/L) * [95%信頼限界]	0-72 時間 : 9.3 [算出できず]
NOECr (mg/L) *	24-48 時間 : 2.3 24-72 時間 : 8.2
NOECb (mg/L) *	0-72 時間 : 2.3

* 設定濃度 (製剤濃度) に基づく値

(13) 魚類急性毒性試験 (製剤)

コイを用いた急性毒性試験

(資料 No. 13)

試験機関：

報告書作成年：2000年

被験物質：乳剤 (PAP 50%)

供試生物：コイ (*Cyprinus carpio*)

一群各 10 匹, 平均全長：6.3cm, 平均体重：3.4g

方 法：暴露期間；96 時間

暴露方法；止水式

供試魚数；5 匹/試験容器, 2 連制

希釈水；井戸水

試験液量；10L/試験容器

照明；16 時間明/8 時間暗

試験液の調製方法；被験物質を所定量秤量し、希釈水に添加して調製した。

試験水温：25±1℃

結 果：

試験濃度 (mg/L) *	0.39, 0.78, 1.56, 3.13, 6.25, 12.5, 25, 50, 100
LC ₅₀ (mg/L) *	24 時間：3.5 48 時間：2.2 72 時間：1.6 96 時間：1.6

* 設定濃度 (製剤濃度) に基づく値

(14) シンコ類急性遊泳阻害試験 (製剤)

(資料 No. 14)

試験機関：

報告書作成年：2000年

被験物質：乳剤 (PAP 50%)

供試生物：シンコ (*Daphnia pulex*), 一群各 50 頭 (2-3 週齢の雌成体)

方 法：暴露期間；48 時間

暴露方法；止水式

試験生物数；25 頭/試験容器, 2 連制

希釈水；OECD 推奨人工調製水

試験液量；200mL/試験容器

照明；16 時間明/8 時間暗

試験液の調製方法；被験物質を所定量秤量し、希釈水に添加して調製した。

試験水温：20±1℃

結 果：

試験濃度 (mg/L) *	0.12, 0.24, 0.49, 0.98, 1.95, 3.91, 7.81, 15.6, 31.3, 62.5, 125, 250, 500
EC ₅₀ (mg/L) *	3 時間：0.031 24 時間：0.0027 48 時間：0.0016

* 設定濃度 (製剤濃度) に基づく値

(15) 藻類生長阻害試験 (製剤)

(資料 No. 15)
(GLP 対応)

試験機関：
報告書作成年：2003 年

被験物質：乳剤 (PAP 50%)

供試生物：緑藻 *Pseudokirchneriella subcapitata*, ATCC22662 株
初期細胞濃度 10^4 cells/mL

方 法：暴露期間 ; 72 時間
暴露方法 ; 振とう培養 (約 100 回/分)
試験培地 ; AGP 培地 (濾過滅菌)
試験液量 ; 100mL/試験容器, 3 連制
pH ; 7.3-7.7
照明 ; 白色蛍光灯 (400-700nm) による連続照明 (3,922-4,111 lux)
試験液の調製方法;被験物質を所定量秤量し、試験培地に溶解させ試験原液を調製した。
この試験原液を順次希釈し試験液を調製した。

培養水温：24.0°C

結 果：

試験濃度 (mg/L) *	1.2, 2.5, 5.0, 10, 20, 40
ErC ₅₀ (mg/L) * [95%信頼限界]	24-48 時間 : 16.2 [算出できず] 24-72 時間 : 25.5 [算出できず]
EbC ₅₀ (mg/L) * [95%信頼限界]	0-72 時間 : 5.6 [算出できず]
NOECr (mg/L) *	24-48 時間 : 5.0 24-72 時間 : 2.5
NOECb (mg/L) *	0-72 時間 : 1.2

* 設定濃度 (製剤濃度) に基づく値

2. 水産動植物以外の有用生物に対する影響

No.	供試生物	1試験区 当りの 供試虫数	供試薬剤	試験方法 投与方法、投与量、 試験条件等	試験結果	試験実施 機関*及び 報告年
1	セイヨウミツバチ (羽化後2~5週齢)	10頭 5連制	原体 () (%)	経口毒性(μg ai/頭) 0.033~0.405	LD ₅₀ (μg ai/頭) 24時間: 0.1207 48時間: 0.1207 影響あり	(2002年)
2	セイヨウミツバチ (羽化後2~5週齢)	10頭 5連制	乳剤 (50%)	仔蜂に800倍液を散布し、所定 日数後に処理葉を入れた容器 に放虫	残毒期間: 3日以上7日以内	(2002年)
3	蚕 [春嶺×鐘月] (4齢)	20頭 3連制	乳剤 (50%)	乳剤31.25μlを人工飼料50g に混ぜ、給餌	死虫率 3日後: 100% 影響あり	(2002年)
4	蚕 [錦秋×鐘和] (4齢)	50頭 2連制	乳剤 (50%)	残毒試験 桑に800倍液を200L/10a散布 し、蚕に給餌	安全基準日数: 7日	(2002年)
5	蚕 [朝日×東海] (4齢)	50頭 2連制	粉剤 (3%)	残毒試験 桑に3kg/10aで処理後、蚕に給 餌	安全基準日数: 3日	(2005年)
6	キツネコモリカモ (幼体、成体)	1頭 10連制	原体 () (%)	虫体を希釈液(500ppm)に浸漬	補正死虫率 1日後: 100% 影響あり	(2005年)
7	オンシツツヤコバチ (成虫)	5~10頭 3連制	原体 () (%)	インゲン葉を希釈液(500ppm)に浸 漬後、成虫を放虫	補正死虫率 1日後: 100% 影響あり	(2005年)
	オンシツツヤコバチ (マミー)	50頭 2連制	原体 () (%)	虫体を希釈液(500ppm)に浸漬	補正累積羽化率 5日後: 0% 影響あり	
8	カカア'リガ'ニ (雌成虫)	5頭 6連制	原体 () (%)	希釈液(500ppm)を試験容器に 1.7mg/cm ² で散布	補正死虫率 1日後: 100% 影響あり	(2005年)

3. 鳥類に対する影響

No.	試験の種類・ 被験物質	供試生物	1群当り の供試数	投与方法	投与量	LD ₅₀ 又はLC ₅₀ 及び無影響量	観察された 影響等	試験機関 (報告年)
1	急性経口 毒性試験 原体	ウズラ	2~6羽	強制経口 投与 (10日間 観察)	(mg/kg) 240, 300, 360, 420, 480	LD ₅₀ : 約 300 mg/kg	-	(1968年)
2	急性経口 毒性試験 原体	キジ	2~6羽	強制経口 投与 (10日間 観察)	(mg/kg) 120, 180, 240, 300, 360	LD ₅₀ : 218 mg/kg	-	(1968年)
3	混餌投与 毒性試験 原体 () (%)	ニホンウズラ	10羽	5日間 混餌投与 (3日間 回復)	(ppm) 313 625 1,250 2,500 5,000	LC ₅₀ : 4,455 ppm	5,000ppm群において 死亡、自発運動低下、 削瘦、うずくまり姿 勢、体温低下。 2,500ppm以上の投与 群で、体重減少、摂 餌量の減少。 1,250ppm以上の投与 群の生存例で胆汁の 希薄化。 全投与群で休薬によ る速やかな回復。	(2007年)

VII. 使用時安全上の注意、解毒法等

1. 使用時安全上の注意事項

[日産エルサン粉剤3] (PAP : 3.0%)

- (1) 本剤の解毒剤としては、動物実験で硫酸アトロピン製剤が有効であると報告されている。
- (2) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- (6) 夏期高温時の使用を避けること。

[日産エルサン水和剤40] (PAP : 40.0%)

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤の解毒剤としては、動物実験で硫酸アトロピン製剤が有効であると報告されている。
- (3) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (4) 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

[日産エルサン乳剤] (PAP : 50.0%)

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤の解毒剤としては、動物実験で硫酸アトロピン製剤が有効であると報告されている。
- (3) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (4) 散布の際は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用すること。
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

2. 解毒法及び治療法

解毒剤としては、硫酸アトロピン製剤が有効である。

3. 製造時、使用時等における事故例

報告例なし。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

VIII. 毒性

【毒性試験一覧表】

1. 原体を用いた試験成績

資料 No.	試験の種類・期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 値又は無毒性量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	頁
I-1	急性毒性 7日間観察	ラット	雄 10	経口	171, 257, 386, 482, 580, 868	雄 410	(1971年)	9
I-3			雄雌 10		167, 200, 240, 288, 346, 415	雄 270 雌 249	(1978年)	10
I-4			雄雌 10	経皮	4000, 5000	雄雌 >5000		11
I-24	急性毒性 14日間観察		雄雌 5	吸入	0, 0.39, 1.56, 3.48 mg/L	雄雌 3.17mg/L	(1980年)	12
II-7	皮膚刺激性 3日間観察	ウサギ	6	皮膚塗布	0.5ml	刺激性なし	(1978年)	13
II-1	眼刺激性 14日間観察			点眼	100mg	刺激性なし	(1975年)	14
III-1 GLP	皮膚感作性 48時間観察	モルモット	雌 15	Buehler 法	感作：原液 誘発：原液及び10% アセトン溶液	感作性なし	(1990年)	15
III-7 GLP			雌 20	Maximization 法	感作：原液 誘発：原液及び10% オリーブ油液	感作性あり	(2004年)	16
IV-2 GLP	急性神経毒性 14日間観察	ラット	雄雌 10	経口	0, 150, 300, 600	300	(2006年)	18
IV-4 GLP	急性遅発性 神経毒性 21日間観察	ニワトリ	雌 14~25		0, 450	遅発性 神経毒性なし	(2009年)	24
V-3 GLP	反復経口投与 90日間	イヌ	雄雌 4	飼料添加	0, 10, 30, 100ppm 雄 0.32, 0.96, 3.17 雌 0.33, 0.98, 3.38	雄雌 10ppm 雄 0.32 雌 0.33	(2009年)	25
V-1	反復経口投与 90日間	ラット	雄雌 10		0, 5, 10, 30, 100, 300, 1000ppm 雄 0.35, 0.69, 2.05, 7.00, 22.25, 81.00 雌 0.32, 0.66, 1.95, 6.51, 20.15, 69.00	雄雌 10ppm 雄 0.69 雌 0.66	(1972年)	29
					マウス	0, 5, 10, 30, 100, 300, 1000ppm 雄 0.72, 1.30, 4.16, 14.14, 43.41, 142.14 雌 0.73, 1.32, 4.43, 14.10, 49.85, 153.44		
IV-3 GLP	反復経口投与 神経毒性 90日間	ラット			0, 10, 100, 1000ppm 雄 0.58, 5.70, 57.49 雌 0.65, 6.46, 65.18	雄雌 10ppm 雄 0.58 雌 0.65 神経毒性なし	(2005年)	36

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

資料 No.	試験の種類・期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 値又は無毒性量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	頁
VI-1	慢性毒性 104週	イヌ	雄雌 4	飼料 添加	0, 10, 30, 100ppm 雄 0.29, 0.93, 3.16 雌 0.33, 0.86, 3.03	雄雌 10ppm 雄 0.29 雌 0.33	(1972年)	39
VI-4 GLP	発がん性 78週	マウス	雄雌 75		0, 32, 320, 1000ppm 雄 5.40, 54.5, 171 雌 6.70, 70.1, 228	雄雌 32ppm 雄 5.40 雌 6.70 発がん性なし	(1991年)	41
VI-5 GLP	慢性/ 発がん性 104週	ラット	雄雌 80		0, 3, 10, 100, 300ppm 雄 0.2, 0.5, 5.4, 16.2 雌 0.2, 0.7, 7.2, 22	雄雌 300ppm 雄 16.2 雌 22 発がん性なし		52
VII-1 GLP	2世代繁殖		P 雄雌 30 F1 雄雌 25		0, 10, 100, 300ppm P 雄 0.7, 7.1, 21.2 P 雌 0.8, 8.4, 24.8 F1 雄 0.8, 8.5, 25.7 F1 雌 0.9, 9.6, 28.2	P 親動物 雄 300ppm (21.2) 雌 100ppm (8.4) P 児動物 雄 300ppm (21.2) 雌 300ppm (24.8) F1 親及び児動物 雄 300ppm (25.7) 雌 300ppm (28.2) 繁殖性に影響 なし	(1987年)	67
VII-3 GLP	催奇形性 10日間	ウサギ	雌 25		経口	0, 10, 30, 90	親 30、胎児 30 催奇形性なし	(1987年)
VII-5 GLP	催奇形性 13日間		雌 18~33	経口	0, 10, 40, 80	親 40、胎児 80 催奇形性なし	(1987年)	73
VIII-1	変異原性 Ames Test	サルモネラ菌 TA1535、 TA1537、TA1538、 TA100、TA98 大腸菌 WP2hcr-		in vitro	S9(-) 500, 2500, 5000 μg/プレート S9(+)(-) 10, 100, 1000 μg/プレート	陰性	(1976年)	75
	変異原性 宿主経由	マウス	雄 6	経口	100×2, 300×2	陰性		77
	変異原性 Rec-Assay	枯草菌 H17, M45		in vitro	245.2, 1226, 2452, 4904, 6130, 12260, 18390, 24520 μg/disk	陰性		78
VIII-2 GLP	変異原性 染色体異常	CHO 細胞			50.2, 100, 151, 201 μg/ml	陰性	(1989年)	79
VIII-3 GLP	変異原性 小核	マウス	雄 6	経口	0, 75, 150, 300	陰性	(2004年)	82

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

資料 No.	試験の種類・期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 値又は無毒性量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	頁
IX-3	生体機能への影響に関する試験							
	一般症状	マウス	雌雄 5	経口	0, 30, 100, 300	30 振せん、下痢	(1991 年)	84
	一般症状	ウサギ	雄 3	経口	0, 10, 30, 100	10 自発運動減少		
	中枢神経	マウス	雄 10	経口	0, 30, 100, 300	100 麻酔増強作用		
	自律神経	モルモット	雄 5	摘出回腸	0, 10 ⁻⁷ , 10 ⁻⁶ , 10 ⁻⁵ g/ml	10 ⁻⁶ 収縮高抑制		
	自律神経	ラット	雄 5	摘出輸精管	0, 10 ⁻⁷ , 10 ⁻⁶ , 10 ⁻⁵ g/ml	10 ⁻⁶ 収縮高抑制		
	呼吸・循環器	イヌ	雌雄 3	十二指腸内	0, 30, 100, 300	300 影響なし		
	消化器	マウス	雄 10	経口	0, 30, 100, 300	300 影響なし		
	末梢神経	ラット	雄 5	横隔膜筋	0, 10 ⁻⁷ , 10 ⁻⁶ , 10 ⁻⁵ g/ml	10 ⁻⁵ 影響なし		
	水・電解質・代謝	ラット	雄 6	経口	0, 30, 100, 300	100 利尿作用		
血液凝固	ラット	雄 6	経口	0, 30, 100, 300	300 影響なし			
溶血試験	ラット	雄 6	経口	0, 30, 100, 300	300 影響なし			
IX-2	解毒・救命	マウス	雌雄 10	経口	0, 289, 347, 417, 500, 600, 720, 864, 1037	アトピ [®] ンが有効	(1986 年)	88
IX-4 GLP		ラット	雄 10		400, 1000 解毒剤 4 回処置 (アトピ [®] ン、 アトピ [®] ン+PAM)	致死量投与では救命効果なし。アトピ [®] ン、PAM 単、併用処置で中毒の低減効果あり (臨床症状)	(1996 年)	89
					780 (LD50 値) 解毒剤 6 回処置 (アトピ [®] ン、 アトピ [®] ン+PAM)	LD50 値投与では統計的に有意でないが効果あり。アトピ [®] ンが有効。PAM との併用には PAM の毒性がでない量 (1mg/kg+25 mg/kg) で有効		93

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

2. 原体中混在物及び代謝物を用いた試験成績

資料 No.	試験の種類・期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 値又は無毒性量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	頁
I-23 GLP	代謝物 急性毒性 14日間観察	ラット	雄雌 8	経口	0, 1976, 2173, 2391, 2630, 2893, 3182, 3500	雄 2459 雌 2184	(1986年)	96
VII-4 GLP	代謝物 変異原性 Ames test	サルモネラ菌 TA100, TA1535, TA98, TA1537 大腸菌 WP2uvrA		in vitro	0, 156, 313, 625, 1250, 2500, 5000 μg/プレート	陰性	(2006年)	97
VII-5 GLP	代謝物 変異原性 小核	マウス	雄 6	経口	0, 300, 600, 1200	陰性	(2006年)	100

3. 製剤を用いた試験成績

(1) 50%乳剤

資料 No.	試験の種類・期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 値又は無毒性量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	頁
I-7	急性毒性 7日間観察	ラット	雄雌 10	経口	200, 260, 338, 439, 571, 742	雄 348 雌 325	(1978年)	102
I-8				経皮	500, 1000, 1500, 2000, 4000, 5000	雄 1715 雌 1900		103
I-25 GLP	急性毒性 14日間観察		雄雌 5	吸入	0, 0.470, 1.638, 5.025mg/L	雄雌 >5.025 mg/L	(1987)	104
II-8 GLP	皮膚刺激性 7日間観察	ウサギ	雌 6	皮膚塗布	0.5ml	軽度の 刺激性	(1986年)	105
II-1	眼刺激性 14日間観察		6	点眼	100mg	中等度の刺激性	(1975年)	106
II-2 GLP	眼刺激性 7日間観察		非洗眼 雌 6 洗眼 雌 3		0.1ml	刺激性あり	(1986年)	107
III-2 GLP	皮膚感作性 48時間観察	モルモット	雌 20	Buehler 法	感作:原液 誘発:原液	感作性あり	(1985年)	109

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

(2) 40%水和剤

資料 No.	試験の種類・期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 値又は無毒性量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	頁
I-11 GLP	急性毒性 14日間観察	ラット	雄雌 10	経口	450, 675, 1013, 1519, 2278	雄 755 雌 949	(1987年)	111
I-12 GLP				経皮	2000	雄雌 >2000		112
I-26 GLP			雄雌 5	吸入	0, 0.970mg/L	>0.970mg/L	(1987年)	113
II-9 GLP	皮膚刺激性 7日間観察	ウサギ	雌 6	皮膚塗布	0.5g	刺激性なし	(1986年)	114
II-3 GLP	眼刺激性 7日間観察		非洗眼 雌 6 洗眼 雌 3	点眼	0.1g	軽度の 刺激性		115
III-3 GLP	皮膚感作性 48時間観察	モルモット	雄 15	Buehler 法	感作: 25%水懸濁液 誘発: 25%水懸濁液	感作性なし	(1990年)	117

(3) 3%DL 粉剤

資料 No.	試験の種類・期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 値又は無毒性量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	頁
I-17 GLP	急性毒性 14日間観察	ラット	雄雌 10	経口	2917, 3500, 4200, 5040, 6048, 7258, 8709	雄 6156 雌 6815	(1987年)	118
I-18 GLP				経皮	2000	雄雌>2000		119
II-11 GLP	皮膚刺激性 7日間観察	ウサギ	雌 6	皮膚塗布	0.5g	刺激性なし	(1986年)	120
II-5 GLP	眼刺激性 7日間観察		非洗眼 雌 6 洗眼 雌 3	点眼	100mg	軽度の刺激性		121
III-5 GLP	皮膚感作性 48時間観察	モルモット	雄 15	Buehler 法	感作: 25%水懸濁液 誘発: 2.5%, 25%水 懸濁液	軽度の感作性	(1990年)	123

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

4. 参考

(1) 原体

資料 No.	試験の種類・期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 値又は無毒性量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	頁
I-1	急性毒性 7日間観察	マウス	雄 10	経口	153, 229, 344, 515, 772	雄 350	(1971年)	125
I-5	急性毒性 10日間観察	野ウサギ	1~4		60, 72, 84, 120	72	(1968年)	126
I-6		モルモット	10		340, 400, 460, 500	377		127
		イヌ	1~2	150, 250, 500	>500	128		
I-1	急性毒性 7日間観察	マウス	雄 10	経皮	1260, 1640, 2135, 2780, 3615	雄 2620	(1966年)	129
I-2		ラット	雄雌 10	皮下	1000, 1300, 1560, 1872, 2246	雄雌 >2000	(1972年)	130
		マウス			1000, 1300, 1560, 1872, 2246	雄雌 >2000		131
		ラット		腹腔内	348(雄のみ), 417, 500, 600, 720, 864, 1036, 1244, 1493(雌のみ)	雄 742 雌 745		132
		マウス			290, 348, 417, 500, 600, 720, 864	雄 430 雌 420		133
IV-1	急性遅発性 神経毒性 21日間観察	ニワトリ	雌 10~20	経口	0, 0.01, 0.05, 0.10, 0.75g/kg	遅発性 神経毒性なし	(1979年)	134
VI-2	慢性/発がん性 106週	マウス	雄雌 50	飼料 添加	0, 250, 500, 1000ppm	雄雌 <250ppm	(1987年)	135
					36, 71, 143	雄雌 <36 発がん性なし		
VI-3	慢性/発がん性 118週	ラット	雄雌 60		0, 20, 100, 500ppm	雄雌 <20ppm	(1985年)	140
				1, 5, 25	雄雌 <1 発がん性なし			
V-2 GLP	慢性/ 発がん性 予備試験 4週間	ラット					(1986年)	147
VII-2	繁殖 予備試験 1世代						(1987年)	149
VII-4 GLP	催奇形性 予備試験 10日間						(1987年)	152
VII-6 GLP	催奇形性 予備試験 13日間		ウサギ				(1987年)	154
IX-1	コリンエステラーゼ 活性	ラット	雄 25		50	コリンエステラーゼ 低下	文献* (1976年)	155

*文献: P. K. Gupta, Industrial Toxicology Research Centre, Chemosphere No. 3, pp201~205 (1976)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

(2) 製剤

1) 50%乳剤

資料 No.	試験の種類・期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 値又は無毒性量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	頁
I-9 GLP	急性毒性 14日間観察	マウス	雄雌 10	経口	0, 592, 769, 1000, 1300, 1690, 2197	雄 1230 雌 1080	(1976)	156
I-10	急性毒性 5日間観察	ニトリ	雄 8		52.5, 78.7, 118.1, 177.2, 265.8, 398.7	296.5	(1970年)	157

2) 40%水和剤

資料 No.	試験の種類・期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 値又は無毒性量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	頁
I-13 GLP	急性毒性 14日間観察	マウス	雄雌 10	経口	450, 675, 1013, 1519, 2278	雄 1446 雌 1268	(1987年)	158

3) 3%DL 粉剤

資料 No.	試験の種類・期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 値又は無毒性量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	頁
I-19 GLP	急性毒性 14日間観察	マウス	雄雌 10	経口	5000	雄雌 >5000	(1987年)	159

注 1: 資料Noの網掛け部分は、平成 23 (2011) 年 10 月 6 日開催の食品安全委員会で既評価であることを示す。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は日産化学工業株式会社にある。

注3：報告書中の用語・略語の抄録中での表記を次表に示した。

用語・略語	抄録中での表記
Cr1：CD (SD) 系ラット	SD 系ラット
Crj：CD (SD) IGS 系ラット	
Sprague-Dawley 系ラット	
Sprague-Dawley (Crj:CD) 系ラット	
SD (CD) 系ラット	
CD-1 系マウス	ICR 系マウス
Slc：ICR 系マウス	
被験物質	検体
総赤血球数	赤血球数
総白血球数	白血球数
血球容積	ヘマトクリット値
ヘモグロビン量	血色素量
平均血球容積	MCV
平均血球血色素量	MCH
平均血球血色素濃度	MCHC
血清グルタミンオキサロ酢酸トランスアミナーゼ	GOT
血清グルタミンピルビン酸トランスアミナーゼ	GPT
アルブミン/グロブリン比	A/G 比
クロール、塩素	塩化物
総コレステロール	コレステロール
総ビリルビン	ビリルビン
リン	無機リン
ネisseria	サルモネラ菌
オリーブ油	オリーブ油